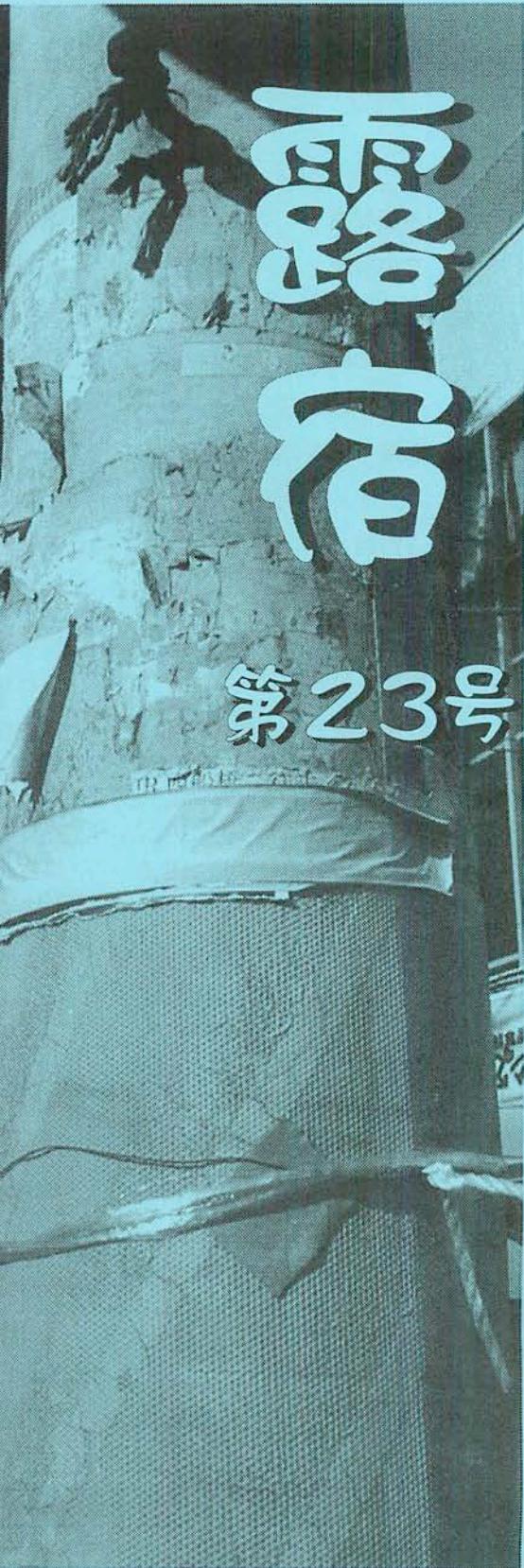


路上文芸総合雑誌『露〈Rojuku〉宿』

2003年3月1日発行



Rojuku



定価500円

## 露宿

		目次
表紙写真	金瀬胖	
文中写真	岡田知子	
自立への春	富士森和行	2
ヤマの幽靈	羽賀勝義	3
TESTAMENT	A.S DAVID	13
悲痛・極寒の路上生活	K	
とうきょうの園こうきよまえ	弓削鴻介	14
五行詩	近松雅之	
…路上生活者Aさんとの語らい	田代猛	15
私の雑記から	いさむ	16
短歌、俳句	いわせまこと	
<法務権力>を告発する！	昼来狂一	17
時代の・殺人者…他	秋戸空	
新編・マンモス交番	望月大成(挿し絵も)	21
善と惡のある社会に生きる	悔古	24
放流される中高年齢者の		
雇用問題	宗春	
朝太郎の箱船	鈴木克彦(挿し絵も)	25
もしかして、パートナー		
FORロマン	只野醉払	29
生への感覚・他	名無しの権兵衛さん	32
境界線上にみる夢（下）	井上林太郎	33
あかい花	はり師いが丸	36
水道町より	高橋美香	37
おきなわ旅日記～観光島～	恩田美代子	38
編集後記		

# 自立への春 | 十五首

富士森和行

いつの日かインデペンデンスの時機至る路上の日々の立春近し  
自立への備へに街の樹木さえ時めく春の命をみする

白い瑞祥に老ひの身絶へだえに悶えつゝ天より降る兆しをぞ待つ  
街頭に起てば哀しも路上の体験ありと云う交流のあり

仮桟の組れ行く現場の光は少しずつ春に向へり陽炎の立つ  
外壁のピーコン蔽ひ化粧板貼りゆく工事みつめて居りぬ

路上へも一度戻れと吾を呼ぶ仲間増えつゝ如月となる

(1/10汐留シオサイト建設現場付近)

老いの身の心揉みつゝこの春を限りとなりて放浪の旅

成人となりゆく者らの口を突く略式言葉の「明けおめ」と云ふ

(明けましてお目出度うの意)

矢絣のふり袖姿のギャル達にむかし乙女の見えざる哀し

滅び行く日本の現状の中にわれも日々老ひつゝほろぶるを受く

放浪の起点となりし故郷の町に飛行船を見し幻を追ふ

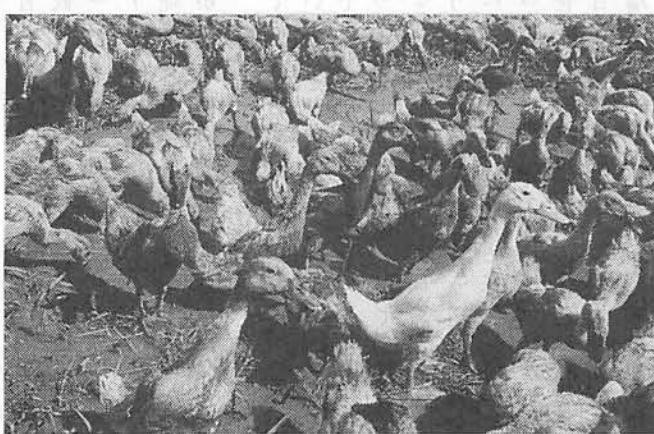
(ドイツ最後のツェペリン号、事故爆破)

着実に春の陽射しとなる室に追われゆく身を影に映せり

路上の体験もつと云ふ人らの暖かきコメントに泣く夜の街頭

わが運命なる放浪は否定しえぬ遂に生々流転に期さむ

(二〇〇三、一・一〇 自宅最後の室にて)



# ヤマの幽靈

羽賀 勝義

(タイトルは  
編集部が付け  
ました)



俺達山谷のアルコール中毒者は、回復が不可能と言われていた。自分もそうだと思っていた。だらしのない人間だ。山谷が悪い。自分が悪い。まわりの人間が悪い。そういう事を考えながら酒を飲んでいた。俺がマックにたどり着く3年ぐらい前、アルコール中毒のどん底の頃、何を考えどんな事をしていたか。その頃俺は、いつでも酒はやめられた。なぜなら俺は、飯場にいった時一ヶ月・二ヶ月と酒をやめる事が出来た。だから俺は「いつでも酒はやめられる」という妄想に囚われていたような気がする。だがだんだんと自分の生きている世界が狭くなっている事を感じる。たとえば飯場から帰つて来て三日もしないうちにお金が一銭も無くなる、といった具合で、体を休める暇もない。自然にアオカソ生활が始まつてそれが当たり前の生活に成つて行つたと思う。今考えるとその頃の事が、よく見えるが、その頃はアルチューの世界に、どっぷりと、浸かつていて、まったく、自分が見えない。自分には見えないが、他人はよく見えたらしい、「お前酒さえ飲まなきやいい男なんだ」とよく言われた。その頃から、飯場に行くより、山谷でアオカソのほうが長く成つて行つた。その頃アオカソをしている者といつたらアルチューぐらいしかいなかつたと

思う。「トンコの羽」、「セントー前の羽」、「クロンボの羽」、「キチガイ羽」、色々なあだ名をつけられ、ちょっと見えないと、「死んだ」と言われ、この世をさまよう。「生きた幽靈」、そんな感じだったんだね。俺としては、好きでやつていいんだ、「人に、とやかく、言われたくない」本音は、「いったいどうなつた。俺は」こんなはずは無い。何一つ自分の思い通りにいかない。調子がいい時は飯場に行って、酒を飲まないでいる時ぐらいで、後は何かに操られ自分の思う通り何一つ行つた事がない。回転木馬に乗つかった感じ。酒を飲んで、アオカソをして、飯場に行く、この繰り返しが、これから長い間続く。この頃からアルチュー仲間がたくさん出てきた。この頃からドヤに泊まつた。記憶が少なくなつていつた。飯場に行くか、アオカソ。この後俺には、この世の地獄、地獄の門の中まで入つて行く。幻覚もこの頃から出始めた。仕事仲間がアオカソをしている俺を見かねて、現金仕事へ誘つてくれて、朝電車に乗つた時である。朝早く目をつぶつた時まわりの客が俺を指して悪口を言つてゐる様に見えた。慌てて目を開けると、そんな様子は見えない。おかしいと思ひ又目を閉じて見たら、又悪口を言つてゐる様に見えた。おもわず仕事道具で向かつて行こうとして目を開けたら、そんな様子は見えない。「何だ今のは」と思いながら、その時はあまり深刻に考えなかつた。

その後幻覚、幻聴の世界に入つて地獄の中のまた地獄をさまざま歩き続ける。二、三日仲間と仕事をして、そしてお金が無くなるまで休んでから、飯場に行こうと思つてはいた。その頃、仲の良かつた仕事仲間が、「まだ底は着いていないが、俺がマックにたどり着いた頃死んだ」と聞いてくる。俺はそれから一年ぐらいしてから、マックにたどり着くが、その頃、奴は死んでしまつた。その話を後から聞いて、「あと三ヶ月生きていれば助かつたのに。助かる道があつたのに」。俺はマックにたどり着いて、五日目ぐらいで仕事に着き三ヶ月ぐらいで、アパートを借りて自立して、その

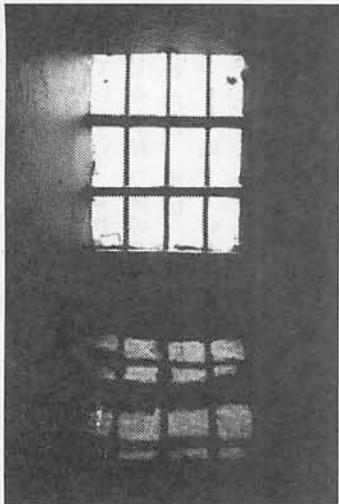
後山谷へ、情報提供に出て行く事になるので、「間に合えば良かつたのに、可哀相な事をした」と悔やんだ事を思い出す。しかし、奴とは、その後何回か、会っているらしいが、俺は、幻覚幻聴の世界に入り込んでいて覚えていない。これからが、俺にとつてアルチユウ人生でもつとも苦しみ七転八倒の毎日が続く。奴と飲んでいると記憶があるのは最初だけ。後は、何にも覚えていない。目が覚めたら裏通りで、ひっくり返っていた。奴は、飯場に帰つたらしい。ポケットを探つて見たら千円札が二、三枚出てきた。朝まだうす暗いうちから、立ち飲み屋は開いている。飲むのは、焼酎に何かを、混ぜて臭いを消して飲んだ。元々俺は、酒が好きではない。酒が好きでない俺が、最悪のアルチユになるとは驚きだ。その頃、飲みはじめてまもなく記憶が無くなる。日本一の立ち飲みや野田屋という店があつたが、よくゴミ置き場、便所の横に倒れていた、ひっくりかえっていた。ドヤを引き上げ飯場に行こうとしたら手配師がいなかつた。そしてまだ残つているお金で酒を飲む。それから連続飲酒が、始まる。その時持つていたお金は、まもなく無くなる。「路上宴会」、聞こえはいいが、あつちこちで酒盛りをしていた。それが底をついたアルチユが助け合うたつた一つの、方法だったのかもしれない。俺も、やがてその中で、も俺の姿が、あつた。一日一杯か二杯の焼酎を飲むのに、一日一夜中が寒かつた九月か十月だった。センター前でたき火がたかれ、杯歩き続ける。そういう毎日が、これから俺の日課に成つて行く。そこにアオカンをしているアルチユが、集まる。そのなかにいつい。俺の姿は、髪は伸び、顔は真っ黒、たばこをくわえなきや前か後ろか分からぬぐらいいひどい姿になつて行つた。幻覚幻聴が出るようになつて、「気違ひ羽」なんて呼ばれるようになつてからは、運転手が迎えに来た飯場も無くなつた。もし飯場に行くなら、あまり俺を知らない所を探して行つた。

【幻覚・幻聴の世界】

その年は飯場は何回か出向いたが、幻覚幻聴で帰って来た。一つ例を上げて見ると、神奈川の日吉の飯場へ行つた時に禁断表情がだいぶ和らいだと思って、昼飯も何とか食べて目をつぶつた時である。大きな目が俺を見ている。ビックリして目を開けた。あけてみると、大きなかな仕事をしていた時三時頃だ。青いジャンパーを着た、よく見ると女性だ。山谷にはアルチユの女性が結構いた。そのうちの一人で、オバサンだけど路上で飲んでいる時何回か顔を合わしている。「お前死んだのか」と、思わず声を掛けた。その頃アルチユ仲間はずいぶん、死んだ。でてきたオバサンも、死んだと思った。「何で俺の前に出る。俺は、お前をイジメタ事なんか無いぞ」と思い、おもわず、「ヤマに、帰れ」と怒鳴った。そうしたら、俺の方を見て手招きしている。「ヤマに、帰つたら花を上げてやるか消えろ」と思わず叫んだ。夕方に仕事が終わつて気になつて幻覚が出た所に行つて見たら手招きをしてるので思わず大きな声を出して中に入つて行こうとした時に変な事が起きた。俺の前に顔じゅう血だらけの女性の幽霊か、立ちはだかつた。びっくりして帰りの車に飛び乗つた。運転手は前から知つていて、「羽ちゃんどうした」心配そうな顔をしていた。車に乗つて、飯場に帰る時バツクミラーを見たら今度は、男が俺を見て手を振つていて。パニックだ。飯場に着いて落着かない俺を見て運転手が酒を持つて「羽ちゃん一杯飲んで風呂でもはいりなよ」と、いつてくれた。しかし俺は、「飯場に入ると酒は飲まないと、決めている。だから飲まない」といつて断つた。飯を食べて風呂に入り寝ようとしている時、「だいぶ楽になつたかい」と運転手が部屋に

帰つて来た。その時、誰かが一緒に入つて来たような気がした。奴に「誰か来たか」と聞いていたら、「誰も来ないよ」とて言つていた。俺は、そのままうつら、うつら少し眠つた。その時に、おかしな夢で俺が、ヤマを眞面目な顔をして歩いている。まわりの連中は声を掛けで来るが俺は、しらんぶりをして歩いている。そして目がさめた。汗びっしょりだ。そして壁に目を向けた時、壁に風景が写つていた。「何だこれは」思つてよく見ると、湖が見える高い所から見た感じだ。周りの景色も峰も、はつきり見える。遠くを指差しながら、何人かの人が歩いていた。よく見ると、湖の向う岸に何か見える。よく見ると屋台が見える。何人かの人が飲んでいて、俺に、手を振つていて。風呂から上がって来たので「チャンピヨン、これ見えるか」とて聞いたら、「また羽ちゃん、冗談言うなよ」と笑つていた。冗談じや無いんだぞ。「チャンピヨン、何か書く物持つてきな、書いて見せてやるから」奴は笑いながら、「いいから、いいから」と言いながら本を見ていた。この後幻聴も現れる。奴をチャンピヨンと呼ぶのは、元ボクサーで、十回戦を四十八回戦つた。ツワモノだ。やつでさえ、ビビッテ俺を川崎の駅前に降ろして逃げた。十時も過ぎて電気を消して寝ようとした時声がした。何だと思つて起きてみたら何人かが、うろ、うろ、しているように見えた。ビックリして電気をつけ窓の方を見たら、窓全部に、目、目、目、俺を睨みつけている。ビックリして鳥肌が立つた。

「チャンピヨン、おきろ」と奴を起こ



した。「窓を見て見ろ」と指を指した。そして「何にも見えない」と言つた。俺は油汗を流しながら大騒ぎしている。「これはおかしい」と思つたらしい。「俺を、ヤマに連れていってくれ」と頼んだ。奴は「ちょっと待つてくれ」と言つて出て行つて、事務所の人を連れて来た。後から聞くところによると、「もう遅くてヤマは無理だから、電車はまだ間に合うから川崎の駅で我慢してくれ」と言つたらしい。そして作業服も自分のを着せてくれた。俺は、パニックになつていて、所々忘れている。ヤマに着いた時、俺ではない作業着を着ていた。ヤマに着くのに次の朝までかかったんだから、驚いてしまう。奴と事務所の人が、車で送つてくれた。車の中でも大パニックだ。車が走つていると、前に入人が飛び込んで来たり、「チャンピヨン、今人を引かなかつたか」さすがに、奴もオロオロしていた。事務所の連中もさすがに、動搖していたようだ。「羽、俺達がいるから心配するな」とは言つてくれてもパニックは、收まらない。間もなく川崎の駅に書いた、「羽ちゃん、まだ電車間に合うから、早く行こう」奴が「改札口まで送つて行く」と言つて一緒に歩いている時、向うから来る人の目が光つた。奴に、「もう帰つていい」と言つた。心配そうな顔をして離れて行つた、俺は改札口の方へ向かつた。座りこんでいる人が突然顔を上げ、そしてその目が光り、そしてウインドのマネキンが机をはさんで話をしている。ビルの屋上に目が付いて光り、もう何が何んだか解らない。これらきれず、表に飛び出した。看板が、突然人の姿になり俺をみて笑いやがる。道から突然、人が立ち上がり俺の前を「たつたつたつ」と歩いて行く。いつの間にか、駅近くの駐車所でウロウロしていた。泥棒と間違われたのか、「何やつているんだ」突然怒鳴られた。男が近づいて俺を上から下まで見て「お前、ヤマか」とて言つた。どうやら川崎の手配師らしかつた。「こんなところで、うろうろしていたら泥棒と間違われる、明日俺も、ヤマに行くから一緒に行こう」「今晚は俺の所へ泊まつていけ」と言つた。チャンピヨンのいる所でさえ、パニックを起した俺が、

顔も知らない奴の家で落ち着いていられるわけが無いと思つたが、奴の車に乗った。とにかく俺の周りには、訳のわからない物が一杯だ。俺の横には、コートを着た男が座っている。俺がそこを見ると男は消えてしまう。そして肩には、ボロ布みたいな物がくつついでいる。車が止つて男が「おい、一杯飲んで行こう」と言われ車から降りた。スナックに入った。俺の横には、男がいる。肩にはボロキレみたいな物が付いて、落ち着いていられない。男が肩に付いているボロキレみたいな物を引きちぎつて、ポケットに入れている。ボロキレは、大声を上げている。もうじつとしている。「具合が悪いから」と、手配師に話した。「俺は少し飲んで行くから車で休んでな」って言つてくれた。そして俺は、車に乗つた。顔はつきり見えた。そして俺に「お前あいつに殺される」俺は、幻覚、幻聴の世界に入り込んで、やつてゐる事は、何がなんだか、分からぬけど、今でも忘れる事はない。それだけ衝撃的な事だ。俺の肩にくつ付いていたボロキレみたいな物も、顔の横にいた。「こいつ、もう死ぬのか」という。パニックで何が何だか分からぬ。後から考えて見ると、厄病神か貧乏神としか考えられない。どう考へても不思議だ。それを聞いて俺は、車から逃げ出した。後はどこを、どう逃げ歩いたかははつきり覚えていない。所々覚えているのは学校のグランドの隅で隠れていた事くらいだ。あつちこつち、逃げ歩いた。多摩川の淵についていた。誰かに追われているという錯覚で、朝まで逃げ回っていた。草むらで隠れていてオドオドしながら、出て行つた。橋を渡り、橋のたもとの交番で駅はどうつちに有るか聞いた。近くに有ると言つていた。「どうした」と聞かれ、飯場から帰つて来たと言つた。おまわりさんは、それ以上何も聞こうとしなかつた。ここから少し下かつた所に駅が有ると教えてくれた。何と言う駅か忘れたが、そこからヤマに帰つたのは間違ひない。一銭も無いと思い、お巡りさんに、「電車賃を貸して下さい」とたのみ、南千住まで行くと言

つたら調べてくれて三百円を貸してくれた。「あんた裸足だけど、大丈夫か」と聞かれた。「大丈夫です」と言つて駅の方に、歩いた。俺の周りには透きとおつた人影が行つたり来たり。お巡りさんが、何にも聞かなかつたのが不思議なぐらいだ。今はJRだがその頃は、国鉄だつた。

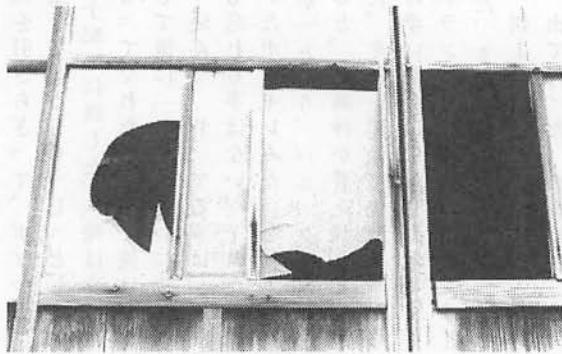
今も、いくら考へても、その駅の名前を思い出せない。とにかく電車を待つて。俺の回りには透きとおつた人影が行つたり来たり、しかし最初の頃と違つて大声を上げたり、走り回つたりせず黙つて見つけるようになった。人影が、逆立ちをしたり天井まで背がとどく大男が出てきたり、床にセンベイみたいに張り付いたりした。俺はときにはにやにやしたり笑つたり、裸足で、目は血走つていた。周りに人が寄り付かなくなつた。そんな所に人が寄つてくるはずがない。電車は、一番後ろに乗つた。乗り換えたかどうかはつきりしない。とにかくヤマに着いた。裸足なので、ドヤのスリッパを盗んだ。いつもチヤンビヨンか乗つてゐる所へ行って見た。チヤンビヨンはいた。「大丈夫だつた」かと、心配そうな顔をして近寄つて來た。「危なく川崎の手配師に殺される」ところだつたと話した。まだおかしいと思つたらし。「交番で金を借りたから、千円貸せ」と言つたら、「昨日胸のポケットに五千円入れて置いた」と言う。ポケットを見たら入つていた。この頃から、幻覚が薄くなり、幻聴が強くなつた。幻聴、幻覚、から抜け出すのに、次の年の三月までかかつた。マンモス交番に三百円を払いに行つた。帰つてさしたらチヤンビヨンが、地下足



袋を用意して置いてくれた。そして「まだ、帰らないから少し休みな」と言つてくれた。俺の作業着は明日持つて来てくれると言つてた。車に乗つて休んでいる時、頭がぐらぐらとするぐらい大きな声で、「勝義」と呼ばれた。ピックリして回りをキヨロキヨロ、見ても誰もいない。地震のような声だ。「黙つて目をつぶれ」と言う。目をつぶつてみたら俺の顔が出て来た。「自分は神さまだ」「お前の顔を使つている」俺の顔は、暗い顔で背中には羽が見える。「お前はもう、死は避けられない」「死ぬのは、それほど辛い物では無い」「死ぬ瞬間が不安なだけで、あとは楽だ」と言う。俺もそう思った。

俺を「殺す相手が、こつちに向かつている」「表で待つように」俺は目をつぶつて俺の顔の方を見たら、おかしい。「羽の下に、あばら骨が見える」いつのまにか、二人に成つてゐる。俺は車を降りようとしたら後ろで不気味な声で、「ふ、ふ、ふ」と笑い「地獄の閻魔を神だと思つてゐる」。そして閻魔の幻覚、幻聴が俺を苦しめる。そして声は、俺を「壁の前に立て今すぐお前を殺しに来るから」壁の端が欠けて、飛び出している鉄筋が曲がり「こつちに来い」と言う。これから先、俺にとつてこの場所が聖域になる。色々な仕事仲間をそこに連れて行つて、「悪魔がいる」と言つたらしい。仲間の一人は今も健在だ。

話はもどるが、「今、車が来る道路の端まで出ていろ」と言われ



た、そこから離れると声は聞こえない。車が来るのを待つた。通り過ぎた。その時の俺は、来る車、来る車が俺を狙つていると思つて、車が来るたび、緊張した。今考へると、道路なのだから車が来て当たり前だ。この後、色々な幻覚幻聴が起る。まず死んだと思つていた叔母さんか俺の目の前を歩いて居る。目を疑つた。死んで幽靈に成つたと思つていたオバサンが歩いている。その時はなんだ、どうした、と思つていたが、あとになつて幻覚、幻聴と気が付くが、抜け出す事はむずかしかつた。朝から何にも口にしている俺は喉が渴き水を飲みに行こうとした。「駄目だ。四時過ぎるまで待て」その時は二時か三時だったと思う。そして目をつぶると色々な物が見えて来る。俺の回りで逆立ちしたり、回転したり、目をつぶらないと見えない。後ろの声は、「あいつ達は、お前が死んであの世へ來るのを待つていて」今考えれば俺は死ぬ覚悟が出来ていたから良かつたものの、もし抵抗しようなんて考へいたら誰かを傷付けたかも知れない。何事も自分に対して覺悟を決めなければならない。こいつ達に自分が乗つ取られるんじやないかと思うようになる。そこから離れると、声が話した。「壁に体をつけろとお前を守つて」壁に体をつけた。「お前の肩の上に居て、お前が魔物に取られそうになつたら、お前の体に入つてお前を守る」と言う。そして体に入つて來た、あの感じは今でも、はつきり覚えている。ビシビシつて体が縮む感じでかといつて、身体がしづれるわけじゃない。今でもあの感じを言葉で表現する事は出来ない。そして水を飲もうとしたら、俺の体に入つて来て「飲むな。この先の庭に水が有るからそれを飲め」確かにこの先に大きな家があり、その庭に入つて水を探して、たらマンモス交番のオマワリが来て、「何をしてる、ちょっと来い」と言われ交番に連れていかれた。俺は「湧き水を探していた」と言つた。「人の庭でそんなことしちゃダメだ」と怒られた。「庭はあそこしか無いから探していた」と言つた。「湧き水じゃなくても交番の水だつて

うまいんだから人の家の庭にはいっては駄目だ」と言われた。「解りました」と言つて交番の水を、飲んだ、飲んだ、考えて見れば昨日の夜から何も口にしていない。オマワリさんといる時もあの透きとおった人の影が、俺の前に急に顔を出したり、とんぼ返りをしたり。この後、俺の記憶はかなり薄くなっている。

マンモス交番の横にパレスと言うベットハウスがあるが、(現在はマンモス交番は他に移転)そのパレスの真ん中あたりにしゃがんでいた、その頃は、回りは、薄暗くなっていた。そろそろ、仕事帰りの連中が帰つて来る。行きも帰りも、連中の足元を見ながら毎日を過す事になる。本当に情け無かつた。酒はこの二、三日飲んでない。少し前までだと、体力も戻り仕事に専念し始める頃なのに、奈落の底に落ちて行く寸前だった。仕事をめつといっぱいして、幻聴、幻覚に追い回され疲れた。その時の俺はタフだった、もつともタフでなければ生きていられない。今日も一日一杯立つていたんだからね、そこにいるのは理由がある。向う側に酒屋が並んでいる。お金がいくらかあつたので飲む気ならいつでも飲めたのに、その日は自分から、飲むと言う気が起きなかつた、幻覚、幻聴も大分薄く成つたような気がしていた。

### 【アオカソの日々】

知つた顔があつたので側へ行つた。もう宴会は終わりらしく飲み物は、ほとんど無かつた。通り過ぎようとした時、渡された瓶にはもう入つてなかつたので、「いい」と言つて歩いた。さつきの顔見知りが来て飲みに行こう、と誘われた。「何時」だと聞くと「もうまもなく五時になる」。早い立ち飲み屋が開く頃だと思つた。いろはの江戸屋へ行つたら電気は付いてるが、まだ開かない。夜中から飲んで無い俺は焦つた。センターの前を通つて宮城屋へ行こうとした。センターの回りは人が集まりだし表通りも人が増え

てきた。ヤマは、ほとんどの人が朝早く起きて仕事を探す。俺は、一晩中焼酎を探し夜中から、一口も飲んでない。焼酎アブレだ。宮城屋へ急いだ。手が真っ黒なのを見て驚いた。センターに戻り洗つたが中々落ちない。顔をしかめながら飲んだ、ほぐと飲むと吐きそうだったので、少しづつゆっくり飲んだ。ほつとした三杯ぐらいまでは覚えている。飲んだお金は奴が出してくれた。一杯一一〇円だつたと。昼近くに目が覚めたらマンモス交番の向かい側だつた。立とうとしても足がふらふらで歩けないので暫くボーとしていた。そこへ、今朝一緒に飲んだ奴が二合瓶を持ってニヤニヤしながら来た。口を開けて先にどうぞと言つて飲ませてくれた。一口飲んでからした。

ポケットを見たら小銭が幾らかでて來たので、前に置いて少しずつ飲んでいた。奴も幾らか前に出した。あと一本は、買える。余裕のあるうちは、これが出来る。人も二人が五人ぐらいに増え瓶も増えている。俺は少し歩くために立つた。体がふらふらの時は、意外と記憶がある。明治通りの方へ向かい世界にいつたがらなかつた。まだ千円札一枚あつた。あつちこつち歩いた。玉姫公園行つた時珍しく宴会をしていた。女性も二人いた。少し休んでいた。アルコールは効いてきて又眠くなつてきた。いろはを最後まで歩いた。何の目的も無い。アルコールを飲む事だけを考えているが本人は気づかない。俺は飲まずに歩くだけだつた。精神的にアルチユは自分でも理解出来ない。他人様が理解出来る訳がない。チャンピヨンの車はまだあつた。暫らくして奴が車に戻つて來た。俺の方からは声を掛けなかつた。暫くして奴が近寄つてきた。車には人が乗つていた。仕事が終わつたらしい。「羽ちゃんいつも調子に戻つたかい」いつも奴は明るい。じつは奴もその時は、まだ軽かつたが、アルチユだつた。数年後、俺が酒を止めて山谷に出た時、大分悪かつた。昔の面影は無く、俺と立場が逆転していた。あの明るさは無くドヤで日雇いをしていた。「免許は

どうした」と聞くと「失くした」と言う。俺はその時免許を持つていた。俺が飲んでる時と奴がまだ普通に近い飲み方をしている時は、天と地ほどの違いがあつた。その違いは、「飲んでるか、いいか」だけだ。アルコールのあわない俺達が、「飲むか、飲まないかは、生きるか死ぬかの問題」だ。

「服、どうもな」といつたら「気にするな」との返事だった。「幾らか回してくれ」って言つたら、ポケットを探つて二千円出して「これで我慢してくれ」といつて渡してくれた。俺にして見ればそれで十分だった。何年か前、奴は俺の手元をしていた事が有る。仕事は本当に下手糞だった。その事でひけめを感じいたらしい。お金が増えたから少し元気になつた。玉姫、いろは、駅、映画館、ヤマじゅう歩いた。いろはパチンコの前で座つていた。何を考えていたか。千葉で人夫出しの飯場をやつてゐる親父に声を掛けられ仕事の事を思い出した。この親父の飯場で、幻覚、幻聴がひどくヤマに追い返される。日雇い仕事をして居る連中がよく来る路地裏の方の立ち飲み屋へ行つた。一時間ぐらい飲んで帰ろうとしたら足が動かない。店の横で座り、二杯ぐらいしか飲んでないのに、タバから飲んだのが今頃効いてきたのだろうか。「効くはずだ。何も食べて無いんだから」暫く寝たらしく目が覚めた。もう戻りは暗かつた。ふらふらしながら又店に入つたが回りは見た事はあつても親しい人は、いなかつた。一杯飲んで店を出た。その後回りは見えない。恐らく歩くのに精一杯だったんだと思う。真つ直ぐパレスの前へ行つて座つた。目もうつろ頭もモウロウとしている。酔つ払つてふらふらしていた。

日吉の飯場から帰つて次の飯場へ行くまでどんな飲み方をしていたかを思い出した。飯場では、二日しか仕事はしていない。いろはパチンコの前で目が覚めた。寒かつた。店は閉まつていてが、何人かが周りで寝ていた。体が硬く成つていて歩き始め

た。ポケットには千円札一枚と小銭が少しあつた。センターの方に行き、たき火にあたつてゐる。飲みたい気持ちが出て來てゐる。又歩いた。いろは通りを端まで歩き玉姫。その日は宴会には出会わなかつた。アルコールが切れそうな気がした。じつとしては出られない気持ちだ。一口でも飲めば、少しは落ち着いていられる。

飲めないときは、何処行つてもない。パレスの向かい側にしゃがんだ。この時間集まる場所は、いろは通りか、セントーか玉姫公園だ。あさひ通りのマンモスの時計を見たら一時半を回つてゐた。歩き出した。次々と玉姫でめざらしくたき火をして、三人ぐらいいしかいない。「良いか」近寄つた。無言だつたが、態度で「いいよ」つて感じだつた。小さいたき火だけど暖かかつた。だけどじつとしていられない。アルコールを探して歩いて、あさひ会通りを吉原の方へ歩き、吉原大門にたどり書いた。前に酒にあり付けてなかつたので、入つて行きたくない。ヤマじゅう歩いても、一口の焼酎も飲めない。「行くしかない」やつぱり探せない。吉原の酒屋は探しなかつた。ダンダン体が震えている。その時は寒いせいだと思っていたが、アルコールが切れたからだつた。不安な事は考えたくない。寒いからと考へる方が安心だつた。この時、まだアルコール中毒とは思つていなかつた。思いたくない状態とあんな行動、誰が見ておかしいはずだ。しかし本人はおかしいなんて考へてない。当たり前の事なんだ。この頃は、他の奴らのやつてる事も理解出来た。一寸前までは、だらしの無い奴らだ何て考へていたんだ。それがすべ



で理解出来る。これは、アル中だから。本人はアル中だなんて思いたくない。震えながらろは通りを歩いていた。中間ぐらいまで来た時、飲んでる連中がいる。ポケットから三百円を握り締めて近づいた。その頃は、まだ親しくない。後で仲良くなる三人がウイスキーを飲んでいた、三百円出して「悪いけど少し飲ましてくれないか」。気持ちよく飲ませてくれた。お金もいらぬと言う。回しのみでは無く、紙コップで飲んでいた。注いでもらつて驚いた。手がブルブルだ。注いでくれた奴が笑いながら、「最後いつ飲んだ」と聞いた。「昨日の夕方だ」。気持ちは言葉であらわせない。やつと辿り着いた、アルコールに。一口飲んではほつとした。「腹にじんときた力が湧いてきた」って感じだ。あの時飲んで力が出た代わりに、生きて行く力を無くした。あつという間に一杯飲んでしまつた。まだ瓶には大分残つている。注いでくれた。「手が震えていいない」。言われて氣付いた。「お陰で体が暖まつた有難う」と礼を言った。俺の心には、酒飲んで手の震えが止まつた事の不安が残つた。色々見ているし、聞いている、アル中の症状だ。こんな状態でもアル中と思つてないと言うよ

り、思いたくないと言つたほうが正しい。奴らは飲みに出て、ドヤが閉まつたので店で買つて来たらしい。店が閉まるので買いにでた。高い酒飲んでいると思った、暫く飲んで奴等がそろそろドヤが閉くから帰るかと言つて、何時か聞くと四時半を少し回つていた。ほつとした気分だ、随分一杯飲むのに歩いた。朝に成れば何とかなる。多少お金が有るからそういう考えが出来る、これから先一銭も無い朝を何回も迎える。宴会は解散だ。アル中同士じやないから揉め事は無かつ



た。残りは俺にくれると言う。奴にはこの後何回か助けてもらう事になる。セントラーの方へ向かう途中、道の脇に何人か座つていた。俺もさつきまで同じ事を考えていたので、その一寸した態度で何を考えているかすぐ分かつた。まだ少し残つてゐる。ウイスキーをさし出した。慌てて取る訳じや無く、静かに頭を下げる。俺は酔つ払つて取つて一口づつ回し飲みを始めた。奴等とは、この後助け合う仲になる。苦しみを解り合える仲だ。ふらふらしながら大通りに出で脇に座つた。人が仕事を探しに大分出て来た。俺は酔つ払つて座つてゐる。「何で仕事の好きな俺が仕事に行く奴の足ばかり見てるんだ」自分が情けなかつた。うつらうつらして薄目を開けて座つていた。

人より早く出て良い仕事を見つける。手配師は腕の良い職人を探す。これが山谷の流れだ。

俺達アル中を山谷の代表にするのは間違いだ。一番悪い物を通して山谷を見るのは、山谷で真面目にやつてゐる奴に申し訳無い。みかけの悪いのは、ほんの一割ぐらい。その時ヤマのイメージを悪くした一人が俺だ。自分でも情け無い人間だと思つていて。ウイスキーが効いて立つ気がしない。前に誰か立つてゐる。見たら新日鉄の船積みの仕事に人を出している親父だ。俺も二十代終わから三十代前半まで飯場にいた。一班の班長までやつた。やっぱり酒で帰る事になる。君津に飯場はあつた。何で長い事いたかと言うと、怪我をして、三ヶ月入院した。この時凄く面倒をみてくれた親父だ。ヤマに帰つて采たら、俺は死んだ事になつていたのには驚いた。その前から俺はアル中の状態がひどかつたみたいだ。この親父にはマックへたどり着くまでに、何回か助けてもらつた。「また始めたな」と笑つてゐる。この親父は俺に酒やめろといつた事が無い。俺が飯場に入ると自分で酒止めるを知つてゐるし、飲み始まるとなかなか止まらないのも知つてゐる。「新しい仕事を始める。お前に合つた仕事だ」という。半信半疑で聞きながら、

寝たんだ。未だふらふらが起きてセンターへ水を飲みに向かった。そしていつもの場所へ行き、いきなり横になり寝た。向い側で宴会やつているのは知つていたが中に入る余裕なんか無かつた。朝のウイスキーがまだ効いている。誰が飲んでるか確かめる気は無かつた。目が覚めた。横を見たら、かつての君津の同僚が二人横に寝ていた。向い側で飲んでた連中が奴等だつたらしい。このうち一人は次の年死んでしまう。まだ二十八才だつたはずだ。俺は良く生きていたものだ。側に焼酎の四合瓶がほとんど手付かず残つていた。俺を見付けて飲もうとして俺が起きないので奴等も寝たらしい。「淹飲むぞ」と言つて飲もうとしたら目を覚ましたが、俺の顔をぼーとした目で見てまた横に成つた。服装は二人共奇麗だ。その日は、土曜日でチヤンピヨンも来てないはずだ。焼酎を少しづつ飲んだ。うまくない。うまい何て思った事が無い俺が、アル中に成るなんて。今なら分かるが、その時は理解の出来る事じやない【マックに行つて、AAにたどり着いて、進行のプロセス、回復のプロセスを理解することで自分の事が分かつて来た。山谷の俺達に対するミニー神父さんの目的がはつきりする。その時は分からぬ、自分じや飲みたくて飲んでるんじや無い。じや何でこんな飲み方してるとか分からず、自分は情け無い人間だと思つていた。顔をしかめながら飲んでいる。其の時もそんな感じで飲んでいた。】目を覚ました一人が、俺を見てベコつと頭を下げる。二年ぶりだ。瓶を出して勧めると、奴は満足そうに飲んでいた。俺は美味しいと思つた事が無い。そこが俺と奴とは少し違う。二人で飲んで空になつたの



で、奴はすぐ酒を買いに行つた。淹を起こしたら洪々と起きた。  
「今買いに行つているから待つてな」「元気そだな淹」つて言つたら、「そうでも無い」といつた。羽さんはと聞かれたので「見た通りだ」と言つた。にやにや笑つて。もう一人の奴が酒を買って来た。随分買つて来た。一升瓶とつまみ、今度は回し飲みでは無く紙コップも買つて来た。三人で飲み始めた。覚えているのは始めだけ、後は全然覚えて無い。目が覚めた。始め「何处だ」と思つた。映画館だと分かつた。この時もう夜中だ。土曜日はオールナイトなので曜日が分かつた。奴らは何處にいるのか、立とうとしたら足がふらつくので座つて。休憩室で寝ていた。ふらふらしながら中を見たら見えない。暫くして一本の上映終つて皆が出て来た。奴らの姿は見えない。君津に帰つたかと思つた。表は少し寒かつた。九くなつて歩いて飲んだ所へ行つてみると、驚いたことに、奴等が未だ飲んでいた。「羽さん心配してた何処行つてた。」俺は返事に困つた。そつとポケット探つて見た、千円札は有つた。誰が映画館に入れてくれたんだ、淹はもう酔つ払つてぐでんぐでんだ。もう一人の奴もだいぶん酔つている。きっと昨日からずっと飲んでいる。俺も負けないぐらい飲んでいる。体力は奴等のほうだし、昨日までは昼間は飲んでいない。一日ぐらいい平氣な訳だ。しかし飲んでるとは思わなかつた。横に座つた。飲み物はあまり無い。だいぶん人が居たようだ。奴等はお人善しだから集まつたと思っていたら、俺がトイレに立つ度に連れ来つたらしい。今は回りを見たら何人か寝ていた。どうやら連れてきた誰かに、映画に連れて行つてもらつたみたいだ。寒くなつて來たので、少し飲んで映画館に入ろうとしたら、奴等も行くと言つた。淹も起こして久し振りに酔つた気分で三人で向かつた。映画館に着いて俺はそのまんま入つた。淹は飲み物を買いに行つたと言う。俺は座席に座つて寝た。うつらうつらしながら座つたら、淹さんが来たと言つて起こしに来た。何かいっぽい買つて

来た。ウイスキー一人一本ずつ買つて来ていた。言葉が出なかつた。「滝大丈夫か」で聞いたたら、「大丈夫だ」。休息所で宴会が始まつた。もう三時頃だと思う。滝が座席で休んでいると言つて立つた。ふらふらだ。瓶は一本づつ、つまみも分けて座つた。俺は、終わりだよと言う声で目が覚めた。回りを見たら二人がいない。足元には、つまみとウイスキーが有る。未だ酔つてゐる。当たり前だけど、ふらふらと出た。端の方で奴等が飲んでいる。「おい滝」手を上げて寄つていつた。少し寝ただけでしゃきつとしてるよう見える。ウイスキー出した。「自分のもまだある。羽さんは閉まっておきな」と袋をよこした。ふらふらだ、今は俺が一番酔つてゐる。ほんの二時間ぐらいで、酔いが覚めるはずがない。奴は、この強さが命取りになり、次の年の二月に死んでしまうんだ。奴等は、今日夕方までに飯場に帰ると言つてゐる。飯場は君津だと思つてたがとつくに辞めたらしい、奴の行つている飯場に後で行く事に成るが、三日ぐらいで帰つて来てしまつたので、奴には、がつかりさせてしまつた。その後アオカソンしている時奴が来て泣きながら「羽さん、前の羽さんわ何処行つたんだ」。俺は寝た振りをしていた。それが奴と最後に成るのは思わなかつた。俺のウイスキーは未だほとんど残つてゐる。奴が飲みにさそつた。俺は手を見せて、「これじゃ駄目だ。行かない」と言つた、恐らく顔も同じくらい汚れている。俺は昨日の所にいるからと言つておいた。俺はチャンピヨンの所での三日を除いては、ほとんどアオカソンだ。

「帰る時、顔見せろよ」と言つて歩き始めた。おぼつかない足取りだつたと思う。世界は、まだ聞いてない。宮城屋は、満員で表にまではみ出している。俺は入るつもりない。座りたいだけだ。センターコーの前を通つていつもの所へ座つた。身体がだるい。アルコールは、まだ効いている。人の流れは、手配師もいつもより少ない。ウイスキーとつまみを枕に横になつた。枕にすれば持つて行かれない。いつも俺は薄目を開けて横になる。寒い事は寒いが

未だ効いているからあんまり気にならない。その時、地獄の閻魔のいる壁の恐怖を思い出した。恐る恐る目をつぶつて見たが何も見えない。ほつとした。あの恐怖の幻聴幻覚が無かつたのではなかった。ふらふらだ。瓶は一本づつ、つまみも分けて座つた。俺は、終りだよと言つて目が覚めた。回りを見たら二人がいない。足元には、つまみとウイスキーが有る。未だ酔つてゐる。当たり前だけど、ふらふらと出た。端の方で奴等が飲んでいる。「おい滝」手を上げて寄つていつた。少し寝ただけでしゃきつとしてるよう見える。ウイスキー出した。「自分のもまだある。羽さんは閉まっておきな」と袋をよこした。ふらふらだ、今は俺が一番酔つてゐる。ほんの二時間ぐらいで、酔いが覚めるはずがない。奴は、この強さが命取りになり、次の年の二月に死んでしまうんだ。奴等は、今日夕方までに飯場に帰ると言つてゐる。飯場は君津だと思つてたがとつくに辞めたらしい、奴の行つている飯場に後で行く事に成るが、三日ぐらいで帰つて来てしまつたので、奴には、がつかりさせてしまつた。その後アオカソンしている時奴が来て泣きながら「羽さん、前の羽さんわ何処行つたんだ」。俺は寝た振りをしていた。それが奴と最後に成るのは思わなかつた。俺のウイスキーは未だほとんど残つてゐる。奴が飲みにさそつた。俺は手を見せて、「これじゃ駄目だ。行かない」と言つた、恐らく顔も同じくらい汚れている。俺は昨日の所にいるからと言つておいた。俺はチャンピヨンの所での三日を除いては、ほとんどアオカソンだ。

「帰る時、顔見せろよ」と言つて歩き始めた。おぼつかない足取りだつたと思う。世界は、まだ聞いてない。宮城屋は、満員で表にまではみ出している。俺は入るつもりない。座りたいだけだ。センターコーの前を通つていつもの所へ座つた。身体がだるい。アルコールは、まだ効いている。人の流れは、手配師もいつもより少ない。ウイスキーとつまみを枕に横になつた。枕にすれば持つて行かれない。いつも俺は薄目を開けて横になる。寒い事は寒いが

未だ効いているからあんまり気にならない。その時、地獄の閻魔のいる壁の恐怖を思い出した。恐る恐る目をつぶつて見たが何も見えない。ほつとした。あの恐怖の幻聴幻覚が無かつたのではなかった。ふらふらだ。瓶は一本づつ、つまみも分けて座つた。俺は、終りだよと言つて目が覚めた。ボーとして座つてゐた。そしてウイスキーを少しずつ飲んでいた。元々、酔つ払つてゐるから直ぐ酔いが回つて来るが良い気持ちの酔いでは無い。袋に入れたまま、飲んでいるから、誰も寄つて来ない。今日は宴会はしたくないので俺にとつては好都合。今日は日曜日なのでいつもとは人の流れが違う。恐らく歩けばあつちこつちで、宴会が始まつて居るはずだ。普通なら歩き回るが今日は、日吉から帰つて来て、俺は大分恵まれてゐる。今は、飲めるから良いが酒があつても飲めなくなる。しかし、これだけ飲む事に恵まれて居ると命を縮めているのに違いない。又酔つて寝た。この二日ウイスキーが多い。回りが騒がしくて目が覚めた。滝達だ大分酔つてゐる。握り飯を買つてきたから食えと言つてゐる。一つ食べ始めた、半分ぐらい食べてあごがだるく成つた。喉を通る時は背筋がぞつとする。十個ぐらい買つてきた。後で食べると言つて袋に入れた。食べ物の食べた記憶は、このぐらいしかない。後は、つまみのラッキョウとかあんまり記憶にない。奴と一緒に俺の知らない顔が三人いた。

俺の知らない顔が三人いた。

飯場は一緒に行くらしい。

奴も着替えていた。ドヤに泊まつてゐるらしい、ドヤに泊りながらアオカソンに近い事をしてゐる、今考えると、奴も立派なアル中だ。

(続)



# TESTAMENT (遺言) ～COMO GUIERE USTED GUE SEAMOS?～

A.S.DAVID

ゆくりなく、あなたを抱きしめ奪った  
熱き甘き接吻（くちづけ）。

忘れな草はスペードのクイーンの隠喩。

流れる（Transcurrir）、流れる、

時（Tiempo）は流れる。

流れる流れる、恋（Amor）も流れる。

この恋は、ジブシー（ロマ）・ファミリーの世界では、  
許されず、暗黒の涙の海に沈没した。

愛しあっても…結ばれ得ぬ…時代の桎梏。

あなた（Matador Rodrigues）は、

光を求めて、旅立った…。

あなたの、デフォルメ（変型）された、

テスタメントは、

あなたの、愛の証の…紅きバラ（Rosa）の華!!

私（Bailaora Goseba：フラメンコ・ダンサーの女性の名）の人生と云うアルバムの  
最後の頁に（誰にも手を触れさせずに）そっと…そのまゝ…飾ってある押し花が…  
それ（Perbume）!!

秘められし、ほのかな、あの紅きバラの花の…香りは、過去の空間を超越して、生  
き続け、私の…ハートをときめかせ…時には…締めつける。

ああ～

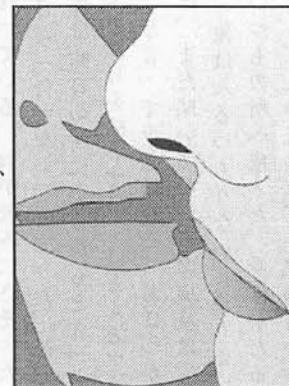
残り火（EL Resto de su Fuego）の…恋（Amor）は…ジブシー（Gitana）…現在  
(Actualment) も、

現在も、

現在も、

流れ（Transcurrir）…

続ける（Continuament）!!



悲痛・極寒の路上生活

K

札幌市のボランティアのち  
ょうさによると男一七人、女性  
が三人ぐらいいるとゆう。しる  
まわ、コンビニストアのゴミ箱  
の食べものさがし、夜ねるところ  
わ、はしの下。すべて凍る氷点  
下一五度。もつてているのわ、な  
にもなしテントも風よけもなく  
し。食べものわ、しようみギレ  
のパン。弁当とどうふ。しるま  
わ駅のゴミの中の本さがし。た  
まにビデオテープがあるらし  
い。それをうるらしい。札幌の  
路上生活者わ大東京の路上生活  
者をうらやましがつてる。東京  
わ食べものもあるし、あおいろ  
のテントもあるし、ねるところも  
あるし。

さようなら

平成一五年一月一四日

## とうきょうの園

### こうきよまえ

ゆげこうすけ  
弓削鴻介



(二)  
春の足音、聞こえます。  
虹の架け橋、眼鏡橋。

♪とうりやんせ、とうりやんせ♪

虹の架け橋、とうりやんせ♪  
幾百万の小鳥たち、

小鳥の楽園、宮の森、  
武者の戦く、まほろしが、

逢いに来たかと、叫んでる、こうきよまえ。

トーキョー、トーキョー、パラダイス  
こうきよまえ。

トーキョー、トーキョー、スイツー、ス  
イツー、

千代に八千代に苦して、  
今も愛らぬ、石垣よ、

今日も元気だ、元気で行こう、  
老いも若きも、若きも老いも、

みんな元気だ、元気で行こう。  
枝垂れ柳が、ゆらゆら揺れて、

風になびくよ、お堀端、  
恋のスイング、白鳥も、

みんな元気だ、泳いでる、スイツー、スイツー  
水に映した、城影は、

江戸の名残を、物語り、  
若い我れ等の、夢誘う。

♪よつてらつしやい、よつてらつしやい、  
抱いて♪

ちよいとベンチで一休み、  
熱いお茶など呑みましよう、

ここは東京の、どまん中、  
鳩が舞い散る、噴水広場

よつてらつしやい、よつてらつしやい、皇居前  
広場。

春の足音、聞こえます。  
虹の架け橋、眼鏡橋。

♪とうりやんせ、とうりやんせ♪  
幾百万の小鳥たち、

小鳥の楽園、宮の森、  
武者の戦く、まほろしが、

逢いに来たかと、叫んでる、こうきよまえ。

トーキョー、トーキョー、パラダイス  
こうきよまえ。

トーキョー、トーキョー、スイツー、ス  
イツー、

千代に八千代に苦して、  
今も愛らぬ、石垣よ、

今日も元気だ、元気で行こう、  
老いも若きも、若きも老いも、

みんな元気だ、元気で行こう。  
枝垂れ柳が、ゆらゆら揺れて、

風になびくよ、お堀端、  
恋のスイング、白鳥も、

みんな元気だ、泳いでる、スイツー、スイツー  
水に映した、城影は、

江戸の名残を、物語り、  
若い我れ等の、夢誘う。

♪よつてらつしやい、よつてらつしやい、  
抱いて♪

ちよいとベンチで一休み、  
熱いお茶など呑みましよう、

ここは東京の、どまん中、  
鳩が舞い散る、噴水広場

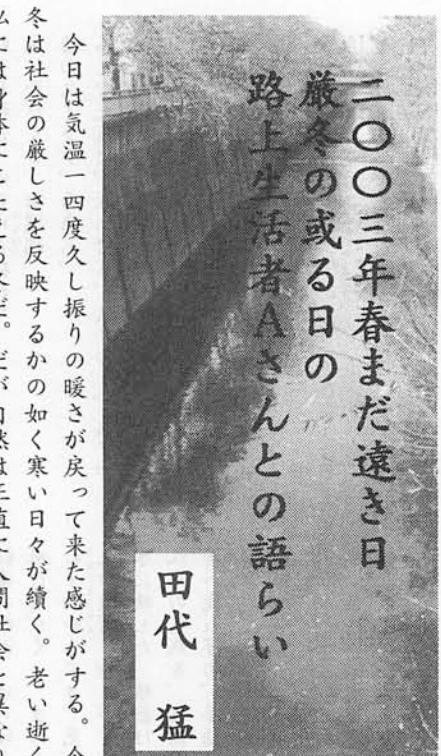
よつてらつしやい、よつてらつしやい、皇居前  
広場。

二〇〇三年春まだ遠き日

## 路上生活者Aさんとの語らい

田代 猛

会の現実は補なつてくれないのだろうか……」  
この言葉はAさんの、いろいろと語られた要示の原点です。要約です。



私は身体にこたえる冬だ。だが自然是正直に人間社会と異なり素直にそれを表す。今日は体調も良く暖かなので「露宿」を持つて路上生活者の人々の生きた声を「露宿」に訴えてもらう心で接してみようと考えました。そしてこんな「露宿」という小さな雑誌は貧しい人々に解放された路上で「のたうちまわる」人々の悲痛な叫びであり、言葉を自ら忘れ去らないための抵抗である。

「露宿」創刊の辞の「原点」「初心」に私の心を自らの鏡に照らして見ようと思ひました。一九九九年六月二八日「露宿」創刊号を何度も何度も眼を通しながら記しています。

中野区の或る児童公園でAさん（名は秘して下さいと云はれました）、Aさんの短い言葉が私の心の肺腑を「するどく」突きました。そしてAさんの残した瞼に焼きつく淋しい笑顔が僕の心に残る。Aさんの言葉の「どこで生きても、どこで生きても、雨が降る。どこで生きてても、どこで生きて、風が吹く。どこで、どこで、生きて行かれるのか、どこに、どこに、生きて行こうか」。

「俺の人生の生き方が間違つてゐたのだろうか……。でも、それを社

会の現実は補なつてくれないのだろうか……」  
この言葉はAさんの、いろいろと語られた要示の原点です。要約です。

今、私は考えます。「人生を狂わす社会が悪いのか」「社会に負ける個人が悪いのか」いつも心の中でぶつかり反問反復致します。来年度予算から生活保護費の切り下げ、介護保険料の値上げ、等々弱者に対する厳しい行政が現実化致す現状です。生きる人間としての権利、働く意志と働く行動さえ剥奪された現実の社会。路上生活者の人々に何んの罪があるのでせうか。一部の人々のことを並べて了見の狭い偏狭的な差別と偏見こそ行政と政治の重大な大罪でせう。

この文が「露宿」二三号に記載される頃は初春の梅がほころび、櫻の木の花が始動する心暖まる春です。心新らたに各々の人生えの道へ「前え」「前え」と己を信じて共に頑張りませう。そして皆様と二三号でお会ひする日を心待ちに致してゐます。

愚句

印度洋に、イージス艦送る時、不況失意の自死3万

虹を見しとは云えぬ己が冬

エリート行政とは愚民黙れの行政と思へば心悲し、心痛し

木枯しの如く身を切りし、現実の言葉かな

背を向けて、夕日の公園のベンチにたたずむ人を見るわれとともに居場所なき老

二〇〇三年一月一五日 勇を奮つて寒季と闘ひ春未だ遠き日を祈りつつ記す。

## 私の雑記から

いさむ



糖漬けの　おふくろ恋し茄子の味  
私も漬けじと　馴れぬ　手捌き  
ヘルパーの顔が見えない　その日には  
活けた花さえ　孤独さ覚ゆ  
明日ありて　想う心の　美しさ  
在りし日に　君が唄ひしこの曲が  
我が身にしめる　長崎の女  
今年また　花見が出来る侍せは  
もやい仲間と　絆に酔いて  
支えられ　歩み学んだ　人の道  
新たな　道のり　なかもと共に  
けなげにも隣りで　咲き　一輪の  
故郷の　今も変らぬ面影に  
ふと立ち止る　お茶店のよしず  
梅雨時に　我れの心もしめり勝ち  
夕顔ながめ　明日に希望を  
朝顔に力づけられ　今朝もまた  
悔いなき日々を　根強く　歩む  
ホームレス　自立法案　提出に  
スクランブ組んで　勝利の叫び  
亡き友よ　念佛がわりに　我唄う  
天まで届け　河内おとこ節  
そぞろ降る　小雨の中で盆踊り  
叩く大鼓に我れ夢を追う  
時は過ぎ　老いた我が身は介護一  
体になるなら　若きあの日に  
氣紛れに　朝の散歩と　しゃれ込ん  
足の疲れえ　杖をたよりに  
秋が来て　表に吊りし風鈴の  
音色も　わびし　孤独かな

秋日和　台風すぎて  
目の保養に　小菊を植える  
秋さやか　もやい結びの展示会  
我れも一句と　筆をとるなり  
眞直ぐに　どの道ゆけば　果報かな  
静かなる　野辺の彼方に　十三夜  
川村の学生達の笑顔みて  
ひざのせあひて　語るたのしさ  
年忘れ　今宵ばかりは　我れも酔い  
マイク握りて　中山七里  
記念なり　シクラメンの花  
部屋に飾りて　佳き年を迎ふ  
大晦日　我れは一人で何思う  
亡き父母　我が子　除夜の鐘わびし  
初時雨マラまでぬれて潘さらう  
ゆうつうに　百八ヶの除夜の鐘  
こゝろ新たに　余生懸がなく  
うたたねの朝を迎えて雜煮喰う  
頬のあたりに　謹賀を感じ  
賛ひは坂を登りて　地を固め  
己のゆく道　ゆりかごの如く  
ドロ雪を顔にあびつつスコふるう  
今年こそ　勝負の年だ　いざ歩め  
長寿　幸福　招福の未

ふらふらとよろけよろけし地下足袋渡せ

どこにころぶかけとばされるか  
正月をのろうがどくの奇声あげ

病床の朋友を見舞いて　そのあまり

苦しさ耐えて　微笑み交す

敬老の贈り品をば　手にとりて

厚き心に　こぼれる涙

学舎の福祉授業に招ねられて

我れも一と役　語る体験

秋日和　台風すぎて

目の保養に　小菊を植える

秋さやか　もやい結びの展示会

我れも一句と　筆をとるなり

眞直ぐに　どの道ゆけば　果報かな

静かなる　野辺の彼方に　十三夜

川村の学生達の笑顔みて

ひざのせあひて　語るたのしさ

年忘れ　今宵ばかりは　我れも酔い

マイク握りて　中山七里

記念なり　シクラメンの花

部屋に飾りて　佳き年を迎ふ

大晦日　我れは一人で何思う

亡き父母　我が子　除夜の鐘わびし

初時雨マラまでぬれて潘さらう

生き下手や酔い痴れしまま年を超す

極寒や地下足袋の底からのぼり来る

持てるもの何にもなくて去年今年

うたたねの朝を迎えて雜煮喰う

持てるもの何にもなくて去年今年

頬のあたりに　謹賀を感じ

雪もよいダムの飯場へ出張す

安乎間の不満飛びかう朝焚火

スルメやくにおいこもうし寒飯場

ドロ雪を顔にあびつつスコふるう

追い込みのダムの工事や用事さゆる

## 短歌六首



### 俳句十一首　いわせまこと

練度のおくれるにおいや飯場朝  
初時雨マラまでぬれて潘さらう  
生き下手や酔い痴れしまま年を超す  
極寒や地下足袋の底からのぼり来る  
持てるもの何にもなくて去年今年  
うたたねの朝を迎えて雜煮喰う  
頬のあたりに　謹賀を感じ  
雪もよいダムの飯場へ出張す  
安乎間の不満飛びかう朝焚火  
スルメやくにおいこもうし寒飯場  
ドロ雪を顔にあびつつスコふるう  
追い込みのダムの工事や用事さゆる

## （法務権力）

を告発する！

00・11・14

## 昼来 狂一

刻（とき）は過ぎ去つてゆく  
この惑星は尚も破壊され  
づづけていく・・・  
支配する政治はだからいくらでも  
欺瞞を造りだせる！

（国家的）行事（祝日）を  
年中行事のような  
たくさん造り出してしまい

訪れる（自然）らしき季節  
いかにも本当のようには  
見せてしまう（マスメディア）

（路上生活者）（露宿労働者）  
（先進国・国内）の第三世界  
ここで暮らす在日外国人

特に・アジア・アラブ・・・の  
人々の過酷な運命、それでも  
出稼ぎにやつて来る人々たち  
よだれを垂らしてまちうける  
（資本家）元請けとその子分の連中  
(違法)なオーバー・ステイを  
知つていながらより安価な  
労働力として使い捨てるようにな  
（資本家）どもは（政治屋）どもを  
使つて（金儲け）をたくらみ  
(法務省)は知つていながら・・・

それは、この（政治屋）どもが

造り出した（法律）だから・・・

（資本家）連中と連携しながら

一方で在日外国人（アジア・アラブの

人たち・・・）を除外し

そしてオーバー・ステイで取り締まり

（世間）には悪い外国人という

意識を植え付ける（マスメディア）

それは差別構造を作りあげてしまふ！

（世間）をそう思わせる為に

（入管）という（権力）は

滞在期間の過ぎて捕えた外国人に

（拷問）なるを（仕掛け）

踏んだり、蹴つたり、ゲンコツで殴つた

（入管職員）はトイレでころんで

頭を床にぶつけたと、  
それがもとで死に至らしめた

在日外国人も居たといふ・・・

（入管職員）はトイレでころんで

頭を床にぶつけたと、  
ぬけぬけと言いはなつ！

（権力殺人）は（密室）で行なわ

れ・・・

私達には見えないから・・・（マスコミ）

の虚の報道

（マスメディア）も知っているのに

それを書かない

（資本家）元請けとその子分の連中

（違法）なオーバー・ステイを

知つていながらより安価な

労働力として使い捨てるようにな

（資本家）どもは（政治屋）どもを

使つて（金儲け）をたくらみ

（法務省）は知つていながら・・・

けれども（世間）の連中は

押し黙つて・・・

もつとも何かを言いだしたら（権力）の

（おつり）を払わせられる

脅しがに入るから

（国家暴力団）と同時に本物の

（暴力団）も入つてくる

（権力）の（合法的暴力装置）に

がんじがらめにされた

社会性

## 時代の・殺人者

02・11・10

## 秋戸 空

新自由主義）（自分勝手主義）と読め！

（クロバリゼイション）

（キヤピタル）（資本）どもは

これらをたくみに操つて

自分らの懐（ふところ）

さえ、膨らんでいれば・・・

あとはどうなつてもいいのだ！

露宿者たちは（あつ！）と云う間もなく

殺されてゆく（死んでゆく）

（ぎやく）の方では札束を

二タ、二タしながら

数えている（キヤピタル）ども

季節もなくされた時期・に・・・

この連中によつて破壊された季節

この地球！

地球が札束に変わってしまった……  
そして多くの幻影（映画）を

写し出す……

これらの事象を「ゴマカスのために」

（マスメディア）の参上！

民たちは欺くのは（マスメディア）

のお得意事！

宝くじから、すべての賭け事、ギャンブル

そして麻薬などを……

これらを民の生活の裡（なか）に

はびこらせる（どこの社会でも見

てみよ！）

これらが（先進国社会）の現象！

この麻薬等も第三世界に輸出し

麻薬は社会の中に犯罪をも造り出してしま

う！

（キヤビタル）どもは札束を数えながら  
この犯罪を取り締まるよう（輕札權力）  
【金庫番人】に指示を出すように、命令  
するのだ！

（けいさつのありかた：・）

これらの物資を使うことによつて

（先進国、国内）にも

あらゆる矛盾をいやが上にも背負わさせて

第三世界（よせ場を

より迅速に造り出す、この連中

あふれる露宿者（貧しき人々）……

実質・第三世界では、農民を公然としめ

殺す！

NAFTA（北米自由貿易協定）

ここに南米及び北米市民社会でも

民は傍観者になつてしまい……

（先進国内）の農民をたっぷり？

（生かせる為！）に・と  
NAFTA（自由（自分勝手）貿易）の  
体制

よその国の貧しき農民たちは首を縊め  
付けられ

死を強制されているのだ……!!

ならば民は、立ち上がる（蜂起）の  
要素が出来上がつていて！

よせ場の露宿の労働者にしても  
社会を変革する要素を持つていて！

貧しき民たちは現実的に死を強制されて  
いる……！

酷暑そして酷寒の死を・と

（マスメディア）のやる事と云つたら  
民をどのように、はぐらかすか  
持つていてチノー總てを動員させて  
（政治）とはとんと複雑に見えるが  
（政治）の單純とは、いかに簡単に  
（貨幣）を掻き集める事ができるか！

国際的には（karency）にいかに  
貢献できるのか、を

国会はおしやべりする井戸端会議  
それにすぎないのだ！

（マスメディア）は本当の事は  
云わない、伝えない……

（グローバリゼイション）（新自由主義）  
を元に報道するのだ！

（批判もせづに……）

（生かせる為！）に・と  
NAFTA（自由（自分勝手）貿易）の  
体制

ころがり込んで来てどれほど儲けがある  
のか？

札束をかぞえて銀行という処から  
次の儲け口はどこがいいのか、と？…

連中のハキだすゴミだめ……（不眞実）!!

それを政治屋は云うこれは（眞実）な  
のだ、と

そしてそれを（眞実）と喧伝する（マス  
メディア）

嘘だらけの新聞

民衆にはどうやつて（ゼニ）儲けするのか  
えらそうに教える新聞

そんな物は、私達は要求してない！！

私達要求するのは、メシと仕事とド  
ヤなのだ！（それと弱きに押し込まれて  
いる民をそこから解放するために社会を  
変革する事なのだ!!）

山谷（ヤマ）の民たちよ、場所はまつ  
たくちがうけど  
メキシコのサペティスタの存在をわ  
ずれるな・!!（彼等の鬪いは、グロ  
ーバリゼイション・新自由主義に反対  
して闘つている……）

彼等も貧しい山谷（ヤマ）同じく食  
べ物もない

（北米貿易自由主義）（グローバリ  
ゼイション）

によつて、口までに持つていった食べ物を  
口元からひっさらわれる哀しみがあ  
る……民は（だけど闘う！）

しかし總ての人々は（不眞実）を・・・  
それらを（眞実）らしく見せ掛けられ

それらを「アリアリズム」と称して

受け入れてしまうよう仕立て上げてしまう(マスメディア)

（自由）だ！と云わせしめ

私達も呼吸(いき)が出来ない……  
でも、私達も立ち上がりろう！  
政治屋ども(キヤビタル)は

真実求めて私達は……  
あらゆる矛盾をのりこえて!!  
立ち上がる！  
嘘つきばかりだ！



### 〈不協和音〉

01 · 11 · 23

秋戸 空

突然、不協和音が大音響で世界を被いつくし

鳴り響いた!!

キヤビタリズムとスターリニズムの  
合同楽団……この者どもが吹奏する

その音が鳴り響いた！

……それ以前歌われていた  
ワルシャワ労働歌は、窒息させられて  
しまった、同胞のはずである(スター  
リニズム)に

抹殺されてしまった！

でもしかしどんな民族にしても  
その言葉は、とても大切なに……

けれどこの不協和音はこれらの全てを

奪い

そこに居着いてしまった(新植民地主義)  
言葉の内(なか)の民族とその魂とを奪  
い去つて……

2

その後ワルシャワ労働歌も世界中で歌わ  
れましたが……  
その思想が抹殺されてしまつたのだつた  
第二次大戦、大戦にかりだされた民衆たち  
その大戦で生き残つて帰つて来た民衆  
たち・・・

その時、えらそく指揮棒を振る支配者の  
指揮に載らされて不協和音の大輪舞が  
はじまつた！  
(どちらにしても・だ・・・)

この大輪舞の内に入らないならば  
全世界から見捨てられてしまうから・と  
どの〈国家〉にもだ！

こう云う内で心ある人々は不協和音など  
求めなかつた・・・  
しかしこの世界の社会のほとんどのへ  
国家〉は

不協和音そのものにしかねなかつた……  
その後もずっと同じように日常は続いている……

こんな世界を一様にしてしまうように・と  
キヤビタリズムはスターリニズムの  
(官僚大系)を巧みに利用して歴史・・?

人間解放の思想は暗黒(白人種の世界)  
の裡(うち)に  
幽閉されてしまつたし  
それも簡素(?)に見せる社会に・・・と

私の出来る事と云つたらせいぜい  
不協和音をプリントされた紙片を破く事  
しか出来ない・・・

そのほかには、何もないから・・・

何もないから・・・

そこに残る物は、憎しみと輕蔑を込めて  
破いた紙片だけ・・・

あらゆる生命  
・・・そこに我等の尊嚴とこの惑星の

だけかもしない・・・

しかし全てを無視されながら・・・  
我等も生きていかなければならぬ・・・

それでも・不協和音を

鳴らしつづける社会性・・・

これが支配の原理になつてしまふ  
巨大なキャピタリズムであり

崩壊してはいいない（官僚大系）的ス  
ターリニズムであり

キャピタリズムはその官僚性を  
取り込んだ!! 民主主義の裡（うちに）に  
（民主主義とは資本主義の上品な言い  
方にしかすぎない）

汚い、汚い、汚物だらけの泥濘社会になり  
ム）が付けたされる

そこに資本主義はファシズム（ナチズ  
ム）

汚い、汚い、汚物だらけの泥濘社会になり  
ム）

資本主義のマスメディアは  
これらの本質を見せづに

それを（きれい）に見せてしまう  
その不協和音で民衆を踊らせてしまう  
（まるで和音でもあるように・・・）

3  
不協和音のただやかましい・音!  
支配者どもの指揮する棒で

狂奏された・音!

これらの音は、眞の音樂を抹殺されてし  
まつた・！

音なのだ

（合衆国アメリカ帝国×ヨーロッパ帝国  
（E.U.））

そしてその仲間入りをしたくて  
（貨幣）を湯水のように使つて

先進国の仲間入りはた  
したニッポン』

まったくカビのはえた古いイディオロギー

脱亜入欧の完成なのか?

この連中（欧、米帝国）らが狂奏する（  
音）にくわわり

キャピタリズムはスターリニズムを操  
り・・・

そのイデオロギーがこの中に指し込ま  
れている

『これが、紛れもない真発と云つても  
云いすぎなどと云わなくともいいだろ  
う』

この（エセ・音樂）にのらされて  
踊らされている民衆たち

眞実の民衆の闘いを抹殺し続けているこ  
れらの（エセ・文化）

闘っている私たちと世間の民衆の  
接点を持たせない支配権力

（この不協和音で踊らないヤツらは  
死）ぬべきだ！・・・という

イデオロギー

それを、実践する

（支配階層の金庫の番人

今、狂奏されている（エセ・音樂）は  
世界中のこの惑星に生存させられている  
民衆を踊らせているのは、全てが不協和  
音なのだ

音にはならない・・・らしき（音）に  
しか過ぎない！

支配階層の（文化）及び民衆の文化にも  
民主主義に見せかけている（文明の音）  
不協和音）なのだ！！

しかし民主主義とは眞実的に云うと  
（資本主義）の上品ない方でしかない！

支配階層からの暗黙の要請があり  
先進国のマスメディアは（karencoy）に  
貢献するからと・・・

一つの批判も持たずいくらでも造り出  
す、狂音、狂音、狂音

それにのせられるよう踊つてしまふ（  
民衆）たち

こんな状態が現代社会の現実のよう  
だ！！

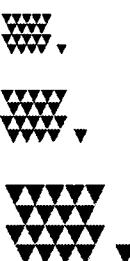
支配階層から（エセ・音樂）に  
民衆たち

踊らされている民衆たち

眞実の民衆の闘いを抹殺し続けているこ  
れらの（エセ・文化）

闘っている私たちと世間の民衆の  
接点を持たせない支配権力

（この不協和音で踊らないヤツらは  
死）ぬべきだ！・・・という



# 新編・マンモス交番

PART 6

望月大成



大成

やることがゼンゼ変らず 新署長

忍者三上の  
二番煎じは

元刑事

やることが變るわけなし

新署長

おつむのほどが

三上並では

だまされたふりをするのも策の内

いつか痛い目

承知あるべし

下手すれば三上今頃 仏様

マンモス前に

殉職碑建ち

三上こそ馬をだましの極悪人

マイコン上手

㊣一コロ

スペイにはまともな奴を使うべし

どいつもこいつも

バカとキ印

御注告 安物買ひは高くつき

ケチの三上で

サツは大損

やくざ屋にスペイやらせてSマーク

人間性が

聞いて呆れて

元刑事

オウムには深入り避けよ いざ出番

××党とて

二の足を踏み

大成を消すも生かすも野村殿

ゴーのサインは

いつも受け

ボケサツが被害モーソの大キヤンペ  
望月大成

マルキ舟とて

大成を被害モーソですたこらさ

忍者三上は

馬の浅知恵

死は覚悟 遺言は三通 仲間内

いざ事あらば

後事託して

路上文芸総合雑誌『露 (Rojuku) 宿』

大成

ビンボしてお布施はたつたの一千円

信者の末席

腰低くして

ポケサツや ケチなスパイはお断り

貧乏神は

大嫌いにて

大成  
ケチすればスパイがたかり 無理もなし  
三上一人が デブの大豚

元刑事  
スパイにはたかりやらせて知らんぶり

経費節限

三上ホク、

大成  
スパイにはたんまり持たせ 野村殿

御法度のはず  
元刑事  
星にたかりは

スパイにはたんまり持たせ

元刑事  
星にたかりも

マニユアルの内

スパイには子持ちを使え 馬はノー

一代雜種は  
人間の屑

お仲間と知らずスパイがペーラペラ  
三上のからくり

ザンザもりして

露宿には仲間三人 朝風荘

ミスキヤスト 知らぬ三上は大間抜け  
やることなすこと すべてざめもり

馬人の本性知らぬ明き首

ボンヤ 育ち

人読めぬなり

世間知らずは

ノーなしはやたら爪出し 世のならい  
バカの三上は

大成  
首にされゲロつた奴がブーメラン

摩訶不思議かな  
何や裏ある

元刑事  
おそらくは秘密握られ首切れず

三上 脱落  
尻まくりされ

元刑事  
三上流 忍者くるやも注意せよ  
警察手帳は

元刑事  
今状は抜き

元刑事  
バチリ確かめ

大成  
大ドケチ ソロパチ上手は空欠の  
スパイ送つて

大成  
安上がりして

綾瀬署のお巡り寄こそ 新居には  
公明正大

元刑事  
隠し事なし

向うから出向くわけなし 本丸の  
元刑事  
忍者の縄張

大成  
手出しノーでは  
スパイにはケチせず払え オウム並  
せめてボリ公の  
一人前分

大成  
浅警がとんだボロ出し 三上にて  
次の綾瀬署  
どんな裏の手

ケチすればスパイ寝返り 心せよ  
チャリンチャリンは  
ざめもりの音

スパイとてノーある鷹は安からず  
七千円では

馬のお値段

## 大成

七不思議 ゲロつた奴が元のさや  
どんな密約

奴と三上は

元刑事

ポケサツはゲロつたことを知らぬやも  
間抜けの三上

ざんざもりでは

バカな奴 チヤリンチャリンに踊らされ  
ケチの三上が

神様に見え

スパイとてコンプレ爺の兄弟分

ない爪出して  
ざんざもりして

気がつけばお山の大将 三上かな

バカとキ印

わんさしたがえ

スペイにはヤー公使うな サツの恥

クリーン警察

まるきしの嘘

三上には又の名渋井の賃五郎

まさにぴつたし

ケチの裏ボス

ドケチして経費節限 手柄なし

シブチンサツの

汚名さらして

## 大成

錢貰え 三上あまりにケチが過ぎ  
お裾分けなら

君をとがめず

スパイ

(ニヤリとして答えなし)

スパイならゆすりたかりも忍者の手

貧乏神も

お仲間の内

スパイならゆすりたかりはとがめなし

浅草警察

寝たふりをして

大成

山谷では骨抜き、牙抜き お股抜き

サツのヤリロ

スペイ使つて

馬子

センセーは骨牙つきも錢抜かれ

ビンボひまなし

春夏秋冬

大成

首切りのスペイのしのぎ いかゞする

まさかヤーコの

殺し屋の餌

元刑事

尻まくる度強があれば敵はなし

バカなあいつも

根性で持ち

マルキとて油断めさるな いざとなら  
あいつもやくざ  
窮そ猫噛み

忍者三上

××党 今じやさっぱり魅力なし

パチリ三上に

財布締められ

金町は怖ろし奴ぞ 人殺し

平気の平佐

君もぐさりは

知ればこそやらせぬことがサツの役

大成 何で大成

金町を逃げ

明日はアン殺

スペイ

大成を怒らすなけれ サツが泣き

小出しをやめて

饅頭たら腹

明日はアン殺

泉の死 他人事ならず 明日にも

君は首吊り

殺し屋の手で

元刑事 大成

殺りたけばどうぞお勝手 令六十路

馬の人生

## 善と惡のある 社会に生きる

梅古



悪し事も善き事も人間であるが由になさる事であると思う。何と言われ様と人は人である。一人で日夜頑張つて居る者は大勢います。しかし大半は新宿の町で何か仕事が見つかればと声を聞いて見ると何だ感だと云いお茶の一杯も呑ましてやると話だけは聞く耳は持つてゐる。しかし努力してハローワークや色々連日の様に行き自分の合う仕事を一生懸命、さがして居る人も大変良く見かける。やはり努力はしなければいついても悪いでない自分の事なのである。

自分一緒に仕事をさがしに行く色々な人と接し又職員の人と良く話し合う。唯一日を無駄に過さず人を信じ良き話し相手をさがし自分が良き友を作り良き相談相手となり一日も早く立直る事が一番六五(七〇)の人はどうあがいても今は無理と思う。しかし駅の周辺、公園の中、路上には、人の話を真もに聞く事すらしない人が

小生は単独で色々な人を世話をしたりしたければ皆んな金は貸して呉れ働いたら返すとかその様な人達を何人も見て来たいくらいじてその人に色々と話して来ても連絡会やその他の支援して下さる方のお陰で働く欲が出て来たのであれば一度で良いから一生懸命と言う自分をためして立ち上げつてほしいと日々思つてゐる。

頑張つて今後ホームレスなど世間から云われない仕返ししてやる根性と熱い心が大切なのはないだろうか。

皆んなで頑張つて世間を見返す気持で、今後一緒に頑張りませう

多すぎる仕事を人材会社に世話をしてやれば賃金が低いとか朝連絡が出来ずその日一日無駄になってしまった三日坊主が多すぎる

多すぎる仕事を人材会社に世話をしてやれば賃金が低いとか朝連絡が出来ずその日一日無駄になってしまった三日坊主が多すぎる

## 放流される中高年齢者

宗春



今まで長引く不況の中で老いられていることも確かだ。中も若きも働きたくとも働けない大勢の人達があふれていも現状をどのように見ているか。私たちの仲間のことと考えると胸が痛む。行き場を失つたさまざまな選択を考えみよう。

この世の全体が再構築されなければならぬ時が来ていると思われる。

このような状況に置かれて

いるのは言うまでもなく我々の仲間、中高年齢者だ。年齢と多くの経験を持つてゐる中高年齢者。仕事に於て中高年世代に新らしい企業が生まれても良いのではないか。その中でまだまだ働ける人材が多いのである。そんな中で若い人たちも職もなく、困難に強

続くことになれば中高年齢者のみならず国民全体の痛みは拡大になる恐れが生ずることが目に見えている。

昨年ホームレス自立支援法もやつとつかめ戦つて来たからには、今後は放流される中高年齢者ではなく、中高年齢者の雇用が良く出来ればと思う。世の中で生きるあかしとして、困難を乗り越えて少しでも失業者をなくして元気であれば働ける日本であつてほしい。

追伸

平成拾伍年

あけましてお目出度う御座居ます

今後も露宿を通じて生きがいに致しませう

# 朝太郎の箱船



鈴木克彦作  
(山下金七)

## 四 あすは晴れるの巻

セミ君の冬ごもり  
高橋 猪に捧げ了

### 二 あすは晴れるの章

会場の人々みんなして バカラ大声と叫んで現われ出たる朝太郎 と叫んで現われ出たる朝太郎 ホンノお寝間着姿に無精ヒゲ 正に幽か地底のアクマかと見まごうばかりの怒り顔 うしろに④の幹部もついている

みなは俄然シンとなる 上げた手も下がらない 蹤り出ししそうな足も上がらない コロシテまで言つて開いた口も塞さがらぬ そのあとテレテニヤニヤ笑つて朝太郎

「ヤメレ 下らぬ争いごとは 船は出たばかり まだ三百日も海の上を漂よわなくてはならんのだ ノア

一族もそうだった 「暑さ寒さも喰元すぎてはオラン なのにヤル者が生ズルイ者なら られる者も甲乙つけがたいヒネコ 度太之者同志の殴り合い 神経過敏な者のイビリ合い しかも婆婆の恨みを持ちづけて争うとはナサケナイ それが世界に冠たるクレージーのやることか お前ら蝦力ニねずみを食う前に考えろ お前らこそ食わ

られて文句を言えぬ 死ナナキヤ治らん生き物 地下にいるクマやライオンに食われてしまえ 善人も悪人も同じもの 白いものを黒と見るか赤いと認めるかの違いだけ そんな者共の創った思想も 法律も知れておる 同じ釜のエビ蟹食つた悪党共が何をする 恨みも過去も雨に洗い流し何も信じずに 今を生きることを幸となし無私無欲 偉大なる狂氣道を勤めぬことによつて勤めよ 他を殺さず他に殺されるな 巷の偽善者共に追いまくられたお前達が 同じ程度に狂つた善を信じる人々を 腐つた性悪豚みたいに太々しくも毒氣を吐いて 叫んで他を打ち苦しめ痛ヅツテ お前達 それでも真のクレージーなのか 寄つて集つて恨みを恨みで 恐怖と痛みにのたうち悶える姿こそ かつてのお前らを苦しめた世間の姿 世間の小役人小善人らは何も知らんで良かれと思つてやつたこと だがお前らは分かつて仕返ししようとした 次には小善人らが報復しようとする

ASATARO ASATARO ASATARO ASATARO ASATARO ASATARO

尊いアホーと思つていたらトンデもない食わせ者もつと純に痴狂人となつて人を許せぬか食うこと寝ること着ることだけを考えれば争いなどはない

十万トンのクソン船に二十万トンの糞一体誰の糞だと思つておるのだお前達有名無名の人のウンチのお陰で命が助かり嵐の大波小浪を乗り越えられたのだお前達が復讐しようとした人々のありがたいウンチによつて生かされたのだぞ我々を生かすため全く喜こばないで死んでいった人々を思えばリントチができるかコラ！早く一揆首謀者や協力者達をみな釈放せよ全員無罪！裁判側も無罪全員釈放せよ互に握手して抱き合つてキッスをし殺してくれなどと叫ばず仲なおりせよみなあまりにも凄い嵐のためキュークツな暮しのため将来も不安で悲しくて船乗船員が集団発狂しただけだ良いも悪いもないこうした人の心の乱れをネラッテ神は人の心を力き回し殺してやろうとやつてくる可愛そうに頭を割られた者もブツ

トバされた者も下らんまねはもう止めろアクマの法典には汝の味方を愛せとのつている我々に敵はいない次に船橋のアナウンサーに伝えよ明日は晴れる神々の無意味な嵐は終るのだアクマの子らは神の怒りオシオキに屈せず従わざことお前達が復讐しようとした人々のどうやら人々頭が回転しない全員釈放とあすは晴れるの実感がツカメない意外にシンとしているこの時！時しもしねばいぶりにくトーブがクルクルとじやいつた如くに（注）ワーッと大声上げて朝太郎御前に平伏して大泣きする者ありけり名をば夕太郎と申し人のアリサマ朝太郎が思想を奇妙に誤解し深読みし少し踏みハズシ自分の考えすら曲げて石頭寺本頑児派を弾劾した罪を三拜九拜し床に頭を打ちつけてワビル

「お許し下さい朝太郎ヘイカわたしが間違つとりましたわたしは神は人の心をソソノカサレ自分を見失なつております

トコロが探偵能力のない夕太郎尊師のことばに感激しムゼンでハーツと大声出すものだから首謀者たちがふたりの会話を疑いイブカシガルそこをすかさず朝太郎

「コラ！首謀者共船の反乱タクラ

「無箱船の三宝に帰依し奉ります」ここで朝太郎夕太郎をば見つめ地獄使いのことばさながら声も密やかに希望ササヤク（注）「夕太郎！よくやつてくれた偶然か必然か人々の殺してくれの叫びのため総てがメチャクチャとなつたがこれも巧妙に仕組まれたワナ一大洪水が起これり箱船にミナを入れた神々に勝つたのだあすは晴れみんな甲板に出て太陽を拝むのだと放送させよ」

「夕太郎！よくやつてくれた偶然か必然か人々の殺してくれの叫びのため総てがメチャクチャとなつたがこれも巧妙に仕組まれたワナ一大洪水が起これり箱船にミナを入れた神々に勝つたのだあすは晴れみんな甲板に出て太陽を拝むのだと放送させよ」

彼らはこの船を乗つ取るつもりだったのだそれが失配して裁判になつて何やら適当に理屈を並べたと言つたのはこれだつたがこれがミン

大勢のアホーに殺してくれと叫ばせておいてお前らの囲りを固めイックにお前と④カンブを殺してしまう

お前らの囲りは石頭連お前とカンブが倒れたら船は本頑児派のもの俺はノビてるしみなはすぐ石頭に靡く危なかつたよこれからも彼らに気を許すナヨ」

お前らの囲りは石頭連お前とカンブが倒れたら船は本頑児派のもの俺はノビてるしみなはすぐ石頭に靡く危なかつたよこれからも彼らに気を許すナヨ」

「お許し下さい朝太郎ヘイカわたしが間違つとりましたわたしは神は人の心をソソノカサレ自分を見失なつております

ンダ諸氏よ 少しは反省しろ  
お前ら暴徒化した人々の行動を鎮圧  
しようと立ち上がったのは 実に  
立派で見事 殊勝な心懸け  
ところがだ 例えお前ら過去の職業  
と上 暴徒を鎮圧しようと戦つたが  
そのまま黙つてヤラレテいたら 事  
その体はこんなに大きくならなかつ  
たのだ 死者三名 重軽傷五十名  
この犠牲の大半はお前らの立ち上  
がり後のもの

ワシは言う お前ら痴狂人にヤラレ  
ていればほんの少しの被害で済ん  
だはずでもお前ら 自分達がか  
つてどれだけ人を苦しめたかなど  
全く思いもつかぬ輩だ 逆に悲しき職業組織の性  
を鎮めようとしたところに大争い  
が生じてしまった 人は压えつけられれば反発する  
して相手は お前らがあの世で國  
家の暴力で拘え裁判し苦しめ ム  
所に入れて罰した輩だ 当然死に  
もの狂いで向つてくる

彼らの方だつて オレ達は何も悪く  
ないのにと信じている なのに苦  
しめるのはお前らだとも信じている  
こんな道理がなぜ分からん お前ら  
がいなければ彼らは暴れず 悪人  
にも狂人にもならなかつたはず  
ワシが非常時にお前らの権限を奪つ  
たのはそこにある お前に傷つ

お前ら暴徒化した人々の行動を鎮圧  
しようと立ち上がったのは 実に  
立派で見事 殊勝な心懸け  
ところがだ 例えお前ら過去の職業  
と上 暴徒を鎮圧しようと戦つたが  
そのまま黙つてヤラレテいたら 事  
その体はこんなに大きくならなかつ  
たのだ 死者三名 重軽傷五十名  
この犠牲の大半はお前らの立ち上  
がり後のもの

ワシは言う お前ら痴狂人にヤラレ  
ていればほんの少しの被害で済ん  
だはずでもお前ら 自分達がか  
つてどれだけ人を苦しめたかなど  
全く思いもつかぬ輩だ 逆に悲しき職業組織の性  
を鎮めようとしたところに大争い  
が生じてしまった 人は压えつけられれば反発する  
して相手は お前らがあの世で國  
家の暴力で拘え裁判し苦しめ ム  
所に入れて罰した輩だ 当然死に  
もの狂いで向つてくる

「そこで朝太郎 大勢派のために演説  
『狂人というものは 少しぐらいの雨  
にもマケズ嵐にも屈せぬ驚かない  
巨人族』  
雨も嵐も踏み越えて 行くが痴呆人  
の生きる道（注） これもアクマ  
様の御試練だ  
あるいは永遠にやつてくる朝なのだ  
朝は再びやつてくる その晴れた  
朝があすにくる！ お前ら下ら  
ぬケンカのためにきょうが何日目  
なのか忘れちまつていいだらう」

「かつて地球は無口で暗く非合理な渾  
沌だった そこから生き物生じ  
我々に進化した そして再び 暗  
く渾沌の中に入つてゆくこの玄妙  
な時を 厳肅に受け止め欲しか  
つた クレーイー達の莊嚴な夜明け前を  
神の大好きな争いなどに現をぬか

「わたしは夢を見た  
それは昔みた水木しげるのマンガだ  
つたかも知れないし アクマの啓  
示だつたかも知れないが一  
都会の学校の先生が 本土からはる  
か離れた絶海の孤島の小学校へ赴  
任せられた  
行つたはいいがあきれてしまう 生

いてもらいたくなかったからだ  
法律だの教育道德そんなもの 人  
を差別し虐げ 狂わせ悪くする以  
外の何ものでもないからだ」

その時 チッ チッ チナポイ チン  
クリバイデ チノ豆 チントレット  
チングルパイデ チン豆ポン と  
船内にバカデカイ放送がガナリ渡る  
ご存知あすは晴れる 嵐は治まつて  
みんなカンパンに出られるのだとい  
うもの」

そこで朝太郎 大勢派のために演説  
『狂人というものは 少しぐらいの雨  
にもマケズ嵐にも屈せぬ驚かない  
巨人族』  
雨も嵐も踏み越えて 行くが痴呆人  
の生きる道（注） これもアクマ  
様の御試練だ  
あるいは永遠にやつてくる朝なのだ  
朝は再びやつてくる その晴れた  
朝があすにくる！ お前ら下ら  
ぬケンカのためにきょうが何日目  
なのか忘れちまつていいだらう」

普普通人も石頭も痴狂人も 本来みな  
同じ白蓮華と同じ純なる魂 アク  
マさまから生まれた人間に何んの  
差異がある

いいかみんなの者 あすは四十五日目  
あすは晴れるのだ!  
アカマ様は抱いて下さる  
クレーイー イズ ビー アンビシ  
ナス（注）  
普普通人も石頭も痴狂人も 本来みな  
同じ白蓮華と同じ純なる魂 アク  
マさまから生まれた人間に何んの  
差異がある

そのあとニヤリと逆三角口を開いて笑  
い 人々をウス氣味悪い気持にさせ  
て 何やら得体知れぬ夢物語をカタ  
ルのだった

「わたしは夢を見た  
それは昔みた水木しげるのマンガだ  
つたかも知れないし アクマの啓  
示だつたかも知れないが一  
都会の学校の先生が 本土からはる  
か離れた絶海の孤島の小学校へ赴  
任せられた  
行つたはいいがあきれてしまう 生

ASATARO ASATARO ASATARO ASATARO ASATARO ASATARO

徒達は学校内のそこら中にウンチをたれるのだ 教室 ローカル運動場しかも学校にも村の家々にも島中トイレンなんてものはない みな外でする そのウンチが先祖代々 つもりに積つて高い山をこさえ 山には木々草々が生えているという配だ村人は總てその山を敬つてゐる新任教諭 こんなことがあつてよいものかと激憤し 生徒に教室や廊下でウンチをすることを禁じソージをさせた そのうえ彼らの親達 島の家庭を回つて ウンチはトイレでするようトイレを作るようジユンジユン説 けれど島人達はエヘラエヘラ笑つてとり合わない 生徒も改めないから治らない そこで先生考えた この島の先祖からウンチの山とやらをなくさぬ限り悪い風習は改まらぬとひとり山を崩しにかかった 村人達は反対した 長老が出てきて これは村人達が崇め敬う先祖の遺産だから罰当りなマネは止めてくれ 島の守り神なのだからと頼んで願つた だが 現代科学万能清潔先生の信念

固く周囲の無理解の中に山を崩し海に捨てた 我々が目の当たりにした如くの大嵐が島を襲い雷が鳴つた 先生が切り崩した山の頂のフレ目から豪雨が浸み込み 崖のウンチ岩が割れて溶けて崩れ 海へドドと流れた 島人はそれを先生に言いつづけ反対して いたのだった 表面は固いが 中は脆かつた 村人の心配は現実のものと相成つた 一度溶け始めた山はドロドロとなつて 四方の海へとなだれ込むしかも凄まじい音をたてて村々をひと呑みにし学校も押し流す今まで岩だ崖だ石だと思つていた島の山や平地も 実は古い古い原始時代からの恐竜や無数の鳥獣や人のウンチが積り固まつて 照らされて出来上がつたものだつた 先生も生徒もウンチの流れに巻き込まれ アップガップと十二分にウンチ水を呑み込んだまま 海へと流される やがて 島も村も小供も親も海へ消え沈んで あとには何事もなかつたように静かな海がヒタヒタしておるだけだった (注\*)

その後に 船内の大騒ぎを知つて駆けつけたのだ いいかオノオノ方 我々もまた 大豪雨の中をウンチに助けられてここまで生きノビテきたのだ ウンチを嫌つては先生のように亡びてしまふ 正に始めにウンチありき ウンチは力なりき ウンチは生命なりき チンボマンボなりきとアクマの法典にある いいかもうケン力争いは止め 智恵を捨て 人の法を捨て 学を捨てれば憂なし アクマと神の契約は四十四日雨が降りつくとあつたはず その日がきょうで終りなのだ 信仰薄き者よなぜアクマを疑うか グズグズするな縛られている人の縄を解き解放せよ みんなの心も解放せよ

(注\*) 水木しげるのマンガより

(注)は引用、書き替えたもので、必要があれば(著作権などの問題)、これを正式に届ける用意があります。

# もしかして、パートナー

♥ + ♪ ロマン ♥

## 只野醉払

します。

ロダンは土、日が全て仕事で埋まってしまって、AAフェローシップに参加できなくなっていた。淋しい思いがして、1月5日だけは、確実に休もうと思っていた。新秋津の仲間に必ず参加できるから計画して下さいとお願いしていた。その後11月末ごろ、AAの風のたよりで、1月5日に高尾山登山が実施されることを知っていた。

後ろには  
うしろには  
ロマン<sup>\*</sup>はいない



振り返るな  
ふり向くな  
後には  
ロダンはいない

行こう

共に歩もう  
今日一日

向き合えば  
愛になるから

(ロダンの年賀状の文面)

1月25日、水曜日、にしき町グループのミーティングがある日、ロダンは18時35分ごろカトリック立川教会会場に着いた。この日はクリスマスだからということで、キャンドルミーティングをすることになっていた。部屋の電気を消して、ろうそくの炎の中で、むかしどのようにあつたか、そして、何が起つて今、どうなつているのかの経験を仲間と分かち合う。とても気持ちが安らぐ。

18時50分を過ぎていただろうか、新秋津の素敵な仲間が、「ただいまあ！」といって入ってきた。ロダンは入口を背にして座つていで、姿を見ていなくても、すぐに誰れだとわかった。すぐに席を立つて、再会の挨拶を交した。

「ロダンがにしき町に入つて、初めて来させていただきました。」「ボクは二年半以上になるから、ここに来られるのは三年振りぐらいですか。」

等、話し合いながら、彼女から別紙を手渡された。

少なくともロダンは思いたい。1月5日の高尾山フェローシップは、ロダンがお願いしていた時点では、決定していなくて、どうしようかなあと考えていた時期だった。

残雪の高尾山は快晴だった。22名の仲間が今年も良い年であるようにと無事下山した。

無事に年も改まつて、03年がやつてきた。元旦は仲間が年賀状を持ち寄つてのAAミーティングだった。

ロダンはam11時30分開催の北多摩地区、フェローシップに参加させていただいた。多くの仲間と久しぶりの再会だった。お雑

二〇〇三年一月五日 高尾山登山（別紙）  
昨年10月1日、新秋津グループへ行かせていただいた時、仲間にお願いしていた高尾山が、今年も実現されたことに、まず感謝

北多摩地区、東村山Gの仲間がこの日、東久留米駅（西武池袋線）まで車で迎えに来てくれた。ロダンがこのフェロー・シップに参加する旨話したところ、迎えに来てくれるといつて仲間に心配りに素直に応じられたのもAAのおかげだ。

ロダンは歩くのが好きだから、この日は最初から東久留米から歩けるだけ歩いて、19時からの立川教会でのAAミーティングに参加することを決めていた。実際は、JR西国分寺駅まで3時間30分歩いた。18時に西国分寺駅に着いたので、夕食の時間を考慮して、立川までJRを使った。立川市役所の前にある焼肉レストランでカルビ定食をいただいた。とてもおいしかった。一二〇〇円也。

**2003年 新春**

**高尾山登山のご案内**

AA新幹線グループ

高尾の豊かな自然の中を、頂上を目指して一歩一歩  
足元を確かめながら、歩いてみませんか？

----- プログラム -----  
2003年1月5日(日) 午前10時～午後3時頃  
(歩行時間約3時間・高尾山)  
高王様「高尾山口駅」改札口高尾山口付近～午前10時頃に集合

【会場】

高王様		高尾山口	
①8:50	9:37	9:57	9:57
②9:10			
【JR中央線】		【高王様】	
8:54	9:37着	9:47	9:50
西国分寺	高尾	高尾	高尾山口
9:07	9:30着	9:34	9:37

【持っていく物】弁当・水・タオル  
【注意事項】途中急な登り下りや、滑りやすい所もあるので、できるだけハイキングに適した服装をしておいで下さい。  
又、急な天候の変化や予報を聞いた場合に備えて雨具や防虫剤のシャツなどを持参されることをお勧めします。

• 登り (高尾山コース・歩行時間約1.5時間)  
高尾山口駅 午前10:10発 —— 高尾山口駅 11:10到着 —— 12時着 高尾山口  
トイレ 小休止・トイレ 通食・自己紹介など・トイレ

• 下り (4号路&1号路・歩行時間約1.5時間)  
(4号路)  
高尾山口 午後1:00発 —— 高尾山口 駅前 —— 2:30着 高尾山口  
記念写真 (?)・トイレ 通食3時  
\* 各時間については進行上、多少のずれがあるかも知れませんので手酌ご了承下さい。

グループの仲間と新年の挨拶を交わすことができて、まずは感謝。年賀状を、グループの若い女性の手造の真っ赤なポストに入れてさせていただいた。素敵なポストを用意してくれた仲間にまた感謝。

依存症の本質は何だろうかと考えつづけていた。日本国憲法のなかにその答えはあった。国民は全てこの法のもとに平等である。そして、全ての基本的人権は尊重されるとある。また、公共の福祉に反しない限り自由であるとある。ロダンが結論するのは早いかも知れない。しかし、ロダンも58年生きてきて、多くの経験があるし、多く交遊がある。依存について、二年半、真剣に取り組んできた。そして出したものだ。

人は全て平等ということは、平等でない人間関係は、いけないことになる。

少し、例を挙げてみたい。師匠と弟子、先輩と後輩、教祖と信者、先生と生徒、上司と部下、親分と子分、AAのなかで、ソーバが長い、短かいの意識などもそうであろう。色々な関係は、たとえば、上司と部下の場合だと仕事が終れば一人のAと一人のBでなければいけないということだ。お金がある、お金がない、頭がいい、頭が悪い、顔がいい、スタイルが、等、色々あると思うが、その意識を持つことなく、他人と接することができればいいのだ。ステップ12のなかでセフティ、セフティの関係を築くことの意味はこれでわかるだろう。ソーバの長い人は、ソーバの短かい人に教えているばかりだろうか。ロダン自身、今日一日の積み重ねの度に思う。新しくAAに来られた仲間にどれほど多くを学んでいるだろうか計算できないくらい多くを教わっている。スポーツサーチップのスポーツサーチとスポーツサーの場合だつて、それはお互いが、相手をスポーツサーチと思えないようではいけないと考えられる。平等の立場で、自身の経験を分かち合うのがスポーツサーチップなのだから、その意味からも、スポーツサーチップは多い方が

いいに決っている。友人は多い方が豊かな心を持てるというものだ。人は一人では生きていけない。世の中、男と女だ。結婚はするべきだと、このごろロダンは考えている。

性は、食事や睡眠と同格と考えるべきだ。法から、一夫一婦制の社会なのだから、結婚するのが人として正しい生き方になるだろう。他人を支配したり、他人のすることを批判したり、批難するべきではない。そして、他人の問題なのに、首を突っ込んではいないだろうか。他人の問題と自分の問題の区別ができないようにならなければ、依存からの解放はないだろう。

AAのハンドブックの表紙の下に私の責任というのが載つている。

### 私の責任

誰れかが、どこかで、助けを求めたら

必ず、そこに AA(愛) の手が

あるようにしたい。それは私の責任だ。

とある。あくまでも、相手が助けを求めたらということだ。求められもしないのに、手助けは無用ということだ。依存はとにかく本人が気付かなければどうにもならないということだろう。

15年1月10日、前日TELがあり、今日は国分寺市日吉町で19時から夜勤をすることが決っていた。細工町の職場は午前11時30分に仕事の都合で利用者には帰つてもらつていた。14時30分ごろ、職場の責任者から、帰つていいといわれ、帰らせていただいた。

国分寺市日吉町1丁目信号の場所がなかなかわからなくて、途中、仕事仲間二人と出会い、一緒に探し当てた。19時10分前に現場に到着した。職人が次つぎと集まつてきて、仕事の打ち合せ、勤務箇所の確認等をして、順調に仕事が始つた。特に問題になるようなこともなく作業は進んだ。夜中の2時によく30分休みになり、ホッと一息をついた。早朝5時30分ごろ、15分休みが来た時、交代員が「今日は、8時ごろまで仕事が終らないよ」といってきた。ロダンの11日は、朝9時に、東急池上線の尾山台の会社に出勤することが決っているから、その旨話して、なおも、「タ

イムリミットは7時なんだ」といって、「ちょっと困ったなあ」「どうしたらいいんだろう」等と話してはいたが、現場から一人抜け出すことは少し難しい問題と思われた。

とりあえず、会社の責任者に電話しておいた。そして、ロダンの出した結論は、「なりゆきにまかせます。ただ、終了時点で減負の可能性があれば、一番先に帰してもらいます」ということだつた。そして、とにかく、イライラしない事だと思つたし、9時から勤務の事を考へるより、今、実際に直面している勤務を無事に成しとげることが最も大切な事だと考へることにした。

国分寺日吉町1丁目から、JR西国分寺駅まで、乗り継ぎが順調であれば40分、15分、そこから新大久保駅まで、乗車時間はかかる。

そして部屋まで5分、尾山台の会社に9時だとすると、部屋からは山の手線で渋谷まで15分、東横線で自由ヶ丘、池上線で九品仏の次が尾山台、待ち時間を入れて15分、と見ると30分はかかる。とにかく一度部屋に戻らないことには、9時からの勤務は無理だから、遅刻しないためには7時30分前にここを出たい。

作業現場からかなり離れたところが勤務箇所だったため、作業の進行状態がまるでわからなかつたことが幸いしたのかも知れない。

いろいろな思いが交錯した。遅刻のいい訳をどうしようかと、やつぱり夜勤を続けるのは無理なのかとか、仕事はいつ終るのかとか、パート勤務者だから、もう首ですといわれるのかなあと、そして、その思いが、イナズマのよう頭を走り去つた時、無駄な考え方をするのはよそう、だつた。とにかく、今を大切にすることだといい聞かせて、朝の冷え込みと聞つた。

そして、7時30分になつた時、引き上げの準備が始つたからロ

ダンは帰つて下さいといわれた。

ここでも、ハイヤーパワーはロダンにふりそいでくれた。尾

山台の職場に30分遅れますけど出社してよろしいですか。と電話

## 路上文芸総合雑誌『露〈Rojuku〉宿』

したところ、「よろしくお願ひします。係員を待たせておきます。来社して下さい。」といわれた。

これも、日々靈的成長を願っているからだろうか。今、ロダンは偉せだ。AAのメンバーであることに誇りを持てるし、生かされている実感をかみしめることができることに感謝。

\* 1 ロマン——今、ロダンは恋をしていて、その恋人の名がロマン。簡単にロマンを紹介したい。美人であることはいうまでもない。

年齢40~50 かぎりなく40才に近い女性であることを強調したい。

ここからは特に慎重に書かせていただく。

身長——一五八センチ(ロダン一六八センチ)

体重——五八キロ(ロダン五五キロ)

バスト——八八センチ

ウエスト——答えたくないとの本人の回答

ヒップ——八六センチ

出生地——もう少し待つて

ロダンを好きになつたところ——もちろん、ロダンの小型ピストル

ロマンを好きになつたところ——もちろん、オットrott、バイナップルとケツ

論してね。  
そして、それは成功した。

ロマンと出合つて数ヶ月になる。素敵な女性との出会いを希望し始めた時、ロダンは携帯依存症の感染ウイルスをまき散らすことを考えた。そして家族割の携帯をもう一台買つて、それを「この携帯をお持ちになつていただけますか?」といつてみて、それを受け取つていただけたら、脈ありと見ていいと。

ロマンはその時、愛称として、ロマンと名付けさせていただいた。auのEメールの登録をした時、ロダンはロダンロマン。ロマンはロマンロダンとしたのだ。メールするようになつて思つた。なぜEメールなのかと。ホント、イイメールだよ。もしかして、今まではロダン一人芝居だったが、次回からは二人の世界になるかも……。そして、二人の話を永く続けられる……といなあ……。

グラントヒル金子山にて記  
15年2月2日(日曜日)

### 生への感覺

零さに負けないよう、生き生きたり  
山谷、生きようとしないけど  
酒に酔っていると、そのまま寝上りに  
ねる、けきよく零さに負けてしまつ  
毎年何人が死ぬ人が出てくる

12.31

### 夢の限界と現実かい 無限の夢と現実へ

俺の夢を実現させたい  
どういふうにすれば、実現させられ  
るか考えてみると、夢とは愛  
なのだとさうか。  
愛とは何なのだとさうか、考え方と、  
キリスト教に近づくところ  
へに気がしてきた。しかし神様は  
目に見えない。信じることが出来ない

### 死への感覺

タキダシはどうして俺は、手伝って  
いるんだろ、食べてて、仲間には  
あたり前のようになつて、食べてて、  
自然に、仲間にはみんな自分勝手  
に動き、考える自由に、零くてよかったです。  
特に悪、仲間には、自立支援する  
に入つ、どうしても生きて、生きて  
いいたいのだと、悪、仲間はほと  
どつけて生きていきたいのだ。

### 影の半歩

悪、道をどこまでも歩く  
キズつきながら泣きたぬかい  
暗、道と昨日に向かって  
俺は、この道を歩きたくはない  
しかし、どうしても歩かてしまう  
ハヤだ、ハヤだと思つぬが、  
どうして、運命

# 境界線上にみる夢

(聞き書き) (下)

井上林太郎

VI

あんた、現実と錯覚つて知つてる？ たとえば、女がいるとするでしょ。自分のこと、女は好いてくれてるんじやないか、とおもつたりする。それが錯覚。はたからみると嫌われるのに、自分では好かれてるとおもつてる。そんな人が山谷には多いよ。樂天的といふのかな、いや、それだけじゃなく被害妄想、誇大妄想がつよい。みんな、ああなつちまうんだ。

だから、山谷の人間は、みんな自分が主人公。自分が王様なんだよ。錯覚を信じ、その世界に生きてる。現実を見ることができない。現実を見てしまつては生きていけない。みんな、唯一の心の抛りどころを失うのがこわいんだ。

だいぶ前の話だけど、いろは(山谷の中心部にある「いろは商店街」)で喧嘩があつてね。一人とも血が流れているのに、それでまだ取つ組みあい殴りあつてた。これ以上やつたら死んじやうとおもつて、引き離そうとしたんだけど、くつづいて離れない。それで近くの花屋のおばさんに「警察呼んで」つて叫んだ。警官がやって来て、ようやく引き離すことができた。

山谷の喧嘩はこわいよ。自分の言い分を通すことに命かけるから。

生まれたのは沖縄の那覇。沖縄は暮らしやすいけど、帰りたいとはおもわない。沖縄つて

せまいから、自由がないんだ。自由のあるところに夢が生まれるわけでしょ。東京のほうがまだましだよ。だけど、山谷からもうろそろ出た。金ができるとすぐ飲んじまうし、いつまでたつても変わらない生活がつづく。それでも、最近ふと、新しい世界がみえてきた。「王子と乞食」の話で、王子がみた乞食の世界、乞食がみた王子の世界のようだ。

中学一年のとき、夜の公園で、クラスの女の子と二人でブランコに乗つていた。そしたら、車が停まり、小学五年生ぐらいの男の子が降りてきて、「兄ちゃん、いつしょに乗らなかいか」とて言う。運転してたのはその子だつた。「おまえ、小学生のくせに何やつてる」って、おもわずおれも聞きかえした。すると、「施設から抜け出してきた」って言うんだ。当時は、アメリカ兵とのあいだに生まれた子や、親のない子、貧しい家の子がたくさんいて、そういう子たちは施設に入れられた。

その子は背中にピストルを差していた。本物だつた。  
おれは車に乗つた。その子の運転ぶりには驚いたな。飛ばす飛ばす、百マイル(約百六十キロ)で突つ走る。道の所々にあるゲート——トラックを簡単に通さないようにするためのゲートなんだけど——、その間だつて猛スピードで通り抜けていく。街灯がぼつぼつ立つ暗い道を走り抜けていく感覚は、そうだな、頭の芯が痺れるようなかんじだつた。夢のようだつた。

それから、おれは不良になつた。鍵をつけたまま停めてある車つかんだ。それから、おれは不良になつた。鍵をつけたまま停めてある車つかんだ。まだ沖縄が返還(一九七二年)される前だつたから、黒人兵が吸うマリファナの匂いが街の飲み屋から漂つてくることもあつた。おなじ中学の女の子のなかには、夜、バーで働いていた。べつに貧しくて働いているわけじゃない。両親だつて揃つてるけど、黙認してるんだ。バーで働いているその女の子は、おれよりも一つ学年が上だつた。授業中、彼女は教室にはいつてきて、おれに「今日、店へ来てよ。ただで飲ませてあげる」なんて言う。彼女は番長だつたから、先生もなにも言わない。

盗難車を乗りまわすようになつて、毎日が楽しくなつた。沖縄で暴れまわった中学時代は楽しかつた。

VIII

おれはいま、乞食をやつてる。それはただ一つ、なんておれは馬鹿だつたんだろう、ということだ。

ここ（山谷）ではね、金のことにしたつてびっくりすることが沢山ある。かりに、人に二万円貸したとする。あとになつて、返してくれと言うと、因縁つけるのかつて、逆に二万脅しとられちやう。けつきよく四万とられちやうんだ。おれなんか、金貸した人間にナイフを突きつけられたこともある。世間の常識とは百八十度ちがうでしょ。発想がまつたく逆なんだ。

雨のなか、道ばたで酒を酌み交わしている連中がいたから、ビニール傘をやつたら、「それよりも金を寄こせ」つて、殴られそうになつたことがある。中国人の女に花を贈つたら、「それよりも飲み代払つて」つて、ゴミ箱に捨てられたこともある。自分に代払つて、いつからか、おれは金に全然こだわらなくなつた。そうして、いつからか、おれは金すらないのに、人には遣つたりするようになつた。自分の金すらないのに、人には遣つたりするようになつた。自分がこのこと、最低の人間だとおもうようになつて、こだわりが少なくなつたんだ。

山谷を経験することが、はたして良いことなのか、悪いことなのか。おれは山谷で変わつた。だれだつて変わるもんなんだ。だけど、たいていは悪いほうへ変わっていく気がする。（ハンバーガーのファーストフード店を指して）この店みたいに、金でどんどん変わつちゃうから。

人間にとつていぢばん大切なもの。おれは、感性じやないかとおもう。その次が知性。ほんとうにそうおもう。山谷の連中に聞くと、十人中十人がこう答えるよ。金よりも大切なものがあるよね、思いやりのほうが大切だよね、つて。だけど、現実には、金のほうを大切にしている者が多い。

山谷に来てよかつたとおもうところ？ 何億も脱税しやクザみだいだつた自分から、変わることができたところだよ。

（ここで丸山は、手にした割り箸を顔の高さまでもつてきて説明する）

百八十度回転させると、上と下が逆になるでしょ。山谷は、天と地が逆さまになつてている街。なんでそうなるのか、なんでここにおれが住んでいるのか、わからなくなつてしまいそう。それで、もう一回百八十度まわしていけば元にもどる。こうやつて発想をすこしずつ変えながら、それを繰りかえし……（風車のようく箸をゆつくりまわしながら、胸元まで下ろしたり、頭上まで上げたりする）

……固定観念をえていかないと、いまの自分からなかなか脱けだせないんだよ。

まわりながら、（箸の）色は変わつていくのさ。

悪魔は灰色。三百六十度まわつて、この高さまでくると、これが白い天使。悪魔は、自分がかわいい、だから人を殺す。天使も、自分がかわいい、だけど人に夢をあたえる。ヤクザな悪魔は、人に夢をあたえるふりをする。けれど決して天使にはなれない。天使のレベルには上がれない。

べつの次元に、黒い乞食がいる。（箸先が）下をむいてるでしょ。悪魔や天使とは逆だ。乞食が、三百六十度まわりながら上へのぼると、赤い革命家になる。この革命家が百八十度まわりながら次元を移ると、（箸先が）上をむき、天使になる。

おれはむかし、きっと悪魔だつたんだとおもう。天使には直接なれないけど、乞食にはなれた。乞食は、革命家になれる。革命家は、天使になれる。おれが天使になるためには、いちど乞食にならなきやいけなかつた。

ここに糞が落ちてるとするでしょ。科学は、いくら発達したと

IX

炊き出しに並ぶ人たちにもいろいろいてね。おれが炊き出しを

手伝つてると、なかには「みつともないこととするな」とか「そんなことしてたら力マ掘られるぞ」なんて言つてくるのもいる。炊き出しを手伝うと、いいおかげのついた飯を食わせてもらえるから、「どうせそれを期待してやつてるんだろう」とでも言いたいんだろう。「偽善行為だ」って言われたこともあつたよ。だから言いえしてやつた。「いつおれが善人ぶつた。おれは悪人だと、いつも公言してるじやないか」って。

事実、おれは悪いことばかりしてた。

モガキつて知つてたでしょ。酔つぱらつて道ばたで眠つてたから財布を抜くことだよ。野宿者同士でやるんだ。やられるやつは、何度もやられる。酒を飲んじゃアオカシして、もう頭が、感性が死んじゃつてたから、だれに抜かれてたのか何時までたつてもわからぬ。身近なやつにやられる場合が多いんだけどね。おれはモガキはしないけど、モガキをしたやつから金をまきあげたりはする。うしろから追つかけていつて、「ねえ、ちょっと分け合つてよ」つてね。

そういう場面に、不思議とよく出くわすんだ。

モガキをされる男や、飲み屋の中国人の娘に十萬円もチップをやる男。彼らは、懲りずに、死ぬまでおなじことを繰りかえす。「あんた騙されてるんだよ」つて教えても、聞く耳なんかもつてないんだから。

おれはね、炊き出しの手伝いをしてたけど、たいして働いちやない。野菜を切つたり、窓に薪をくべたりする作業は、野宿者の仲間や支援の人たちが殺到してやるでしょ。だから、だまつて立つて見てる。人の仕事をよこどりするようなのが嫌なんだ。それがやるのは、炊き出しが終わつたあと道路の掃除とか便所の掃除。人があまりやらない仕事、やりたがらない仕事だね。そういつたものは、むこうから自然にやつてくる。立つて見てるだけじゃ悪いな、なにか優しいことをしたいな、そんな気持ちはもつてるのさ。

隅田川に飛び込んで死んだ南さんが、こんなことを言つていた。  
「肉体労働をしていると、失われていくもののほうが、あまりにも大きい」つて。日雇いできつい仕事をしたあとは、つい酒を飲んでるんだとおもう。

XI

(いつまで山谷での生活を続けるのかという問いに)  
わからないなあ。

XII

南さんの遺骨を受けとりに、お姉さんが上京してきてね。彼女が警察でみせられた報告書には、「ルンペン生活をしていて、過つて川に落ちて死亡」と書かれてたらしい。それでおれ、お姉さんに会つて話したの。「違うんですよ。南さんは、偉い人の作品をたくさん読んで、自分で書こうとしたんだけど、それができなくて川に飛び込んだんですよ」つて。お姉さんは、「その話を聞けてよかったです。ありがとうございました」と言つた。

酒ばかり飲んでいた南さんは、意志が弱かつたのかもかもしれない。だけど、おれはね、意志は弱いほうがいいんじやないかともおもう。うまく言えないけど、意志は人をしばつてしまうでしょ。努力とか忍耐、強い意志とかは、おれにとつては当面の敵なんだよ。



# あかい花

はり師いが丸

「大棒かるた」ができるようになった彼女のお気に入りは、「あたまかくしてしりかくさず」と、もうひとつ。うどんの汁をすすりながら「のどもとすぎればあつさわされる～」と言って、眉間にしわを寄せている子どもの姿は愛らしいはずなのだが、どうしたことか、せつなさを誇る。

小さな命の誕生に唾をかける者はいない。しかしながら「おめでとう」という祝福を、孕んだ当の本人が笑顔で受けとめられるようになるには、時として時間がかかるものだ。男か女、もしくはその両方の愚かさの問題はさておき、失う恐怖を伴う存在を持つことの不安は、とりわけ初めての場合、喜びを軽く飲みこんでしまうことがある。

内面をそんな心もとなさと動搖で満たしていたのは、新宿西口ダンボール村という空間に依存していた頃だった。簡単に人が死ぬので、そこでは「飯」や「寝床」といったものと同じように、「命」という言葉が日常的に使われていた。

村に居住する人々は、はすっぱな小娘が身ごもったことを歓迎し、おもしろがってくれた。しばらくは「ありがとう」とうまく応えることができなかった私も、周りの人たちの反応に促されて、次第に顔をほころばせることができるようになっていった。私はどちらでもよかったのだけれど、ゆうこさんは、会うたびに「女の子だといいね」と笑んでくれた。期待に添えないと、がっかりされるような気がしたが、年の暮れに生まれたのは女の子だった。

「命」という言葉を、初めて、これから生きゆく者のために使うようになり、その命が1日1日延びていくことを、指折り数えて暮らすようになった。ダンボール村が火事になり4人の犠牲者が出てことを、NHKの夜のニュースで知ったのは、そんなある日のことだったので、私はそれをテレビの中のことだと思いこもうとした。夢か、遠い国の話だと。

数日後、フェンスで閉鎖された広場を見舞うと、見知った仲間たちが、まず、子どもの誕生を祝う声をかけてくれた。ゆうこさんにはもう娘の顔を見せることができないことを知った。何ひとつ受けとめることができぬまま、赤ん坊のせいで来るのが今になったと言い訳をした。

涙が噴き出してきたのは、2年以上閉鎖されていた西口地下が整備されてオープンしたときだった。あなたが生まれてくることをたのしみにしてくれていた人に、一緒にお花をあげに行ってくれないかという依頼に、娘は快く応じてくれた。「火事でしんじゃったの？もう会えないの？」と繰り返しながら、自分が向かう先のことを確認していた。

その火事の残した意味を思い知ったのは、つい最近のことだ。

墓に唾をかける者もいないだろう。けれども、手向ける花を絶やすことは、あまりにもたやすく、そんな喜劇ばかりを繰り返す愚かさは、既に可笑しさを通り越して、悲しみばかりを満たしていくようだ。耳をふさいでも、目をそらしても、逃れることなどできやしないのに。

水道町ナニ

卷之三

冷えています。  
風が、痛いのです。

大坂に廻るが如く此の如きは、人間の心が二つ

昔から愛情込めて私も私の胞をグサリと突き刺す銃が一回も  
矢せるありがたい友人である。

高校生の時だが、差別など云々ではなく、最近腹立たが  
て云ふ間に「なになあ」と怒鳴った私。N(ナ)マヒヤハ「なんぢや、まかしは  
まかこにいどまがうや。腹立たんてこゝことはマシタ何も知らんがうや。」  
知らんとおもふことすうどキヘン。「アニタも、と勉強しておひと遊びが  
あかん。」グサリと胸に「キ」突いた。「わんとおもつてゐやうか?」  
とそれが以來、ずっと考へてゐる。(ナマヒヤハすきとせうわすねなど)  
「

以前、左近が殺された田舎者が多數死んでいたところに、左近の死因が判明した。田舎、「聞こえた、あれ?」と、もう餘りで驚かれて、一日仕事が出来なかっただよ。」と人間にに対する許しがたい扱いに慣れる友人の言ひ方だ。嫉妬する所が二つ。(おかしなやうだが) なぜ左近が「おおせん」四分が海や、まだ門の脇がつづいた。まだ三日を过了が二つ。

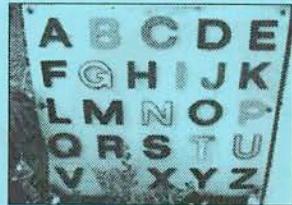


（四九）萬葉集卷之三  
山。山と山と山。

# おきなわ旅日記

～観光島～ 恩田美代子

今日は、ものすごく天気が良い。石垣島から高速艇に乗って10分で行かれるという竹富島に向かう。エメラルドグリーンの海を見つめているうちに、あっという間に到着。船が早すぎて情緒がないなあと思いつつ顔を上げると港に無数の観光用マイクロバスが。その横ではクレーン車が港の修復工事をおこなっており、げんなり。



とにかく海岸を目指すため歩くと、蝶がヒラヒラ舞っている。両脇の緑濃い植物とこのヒラヒラがぴったりしていて、気持ちいい。以前誰かが、竹富島の蝶がいいと言っていたけどその通り。海岸に着くと、波が穏やかで泳ぎたい衝動にかられるが、砂浜に車のタイヤの跡がびっしりついていてガッカリ。

島の中心部に戻り、国から保存の指定を受けている有名な赤レンガの家並を見て歩くが、無理に残されている感じがする。生活している家の中を見たいと言つても誰も聞き入れてくれず、三味線の音色を聞きたいと言っても、「弾ける人が居ない」とあっさり断られる。みんな観光客慣れしてるので、観光客のマナーが悪いのか。与那国島なら、皆喜んで協力してくれたのになあ。私は駄目だ、この島。さらば竹富島よ、もう来ません。

早々に退散し、石垣島に戻る。友人に手紙を書いているうちに、(不思議と手紙を書いていると落ち着くのだ)沖縄本島に向かう夜行船の乗船開始時刻になる。いよいよ本島か、旅もおわりに近づいている。船が石垣島を離れると、山が連なっているのがわかる。次に来たときは、ゆっくり石垣島を回ろう。それにしても、船の中だとよく眠れるのは何故?

次号24号は5月1日発行予定です。

次号も頑張ります!乞う御期待!

投稿者の皆さん、原稿締め切りは

4月4日必着にてお願いします!

## 編集後記

「冬空に 探せど見えぬ 遙かな未来

迷え! 小羊 地面踏み締め」

新しい年の始まりとうたた寝してて間もなく、春の足音が近付いています。が、どこまで歩いても人生修行やなーと感慨深い冬を迎えていた2月です。。。寒さ厳しき折、露宿で少しでも皆様の心が温まりますように! (お)

## 露宿ベン俱乐部短信

掲載誌を見るのを願いながら羽賀勝義さんが病院にて御亡くなりになりました。「ヤマの幽霊」は不治の難病で入院中の羽賀さんが障害者用の特種ワープロで綴ったものです。「羽賀さんが亡くなる前に是非掲載してもらいたい」と担当の医師から原稿の束を渡されました。羽賀さん自身も快諾し喜んでくれていたとの事です。アルコール問題の本質に迫った壮絶な文章です。アルコール問題と戦う多くの仲間に読まれる事がせめてもの供養になると思います。続きは次号に掲載致します。  
死の淵にありながらも「生きている証」を綴り続けた羽賀さんに感謝。

# Rojuku

定期購読大募集

購読費・スポンサー費

送り先

郵便振替口座

00160-6-190947

「ろじゅく編集室」

## 露宿バックナンバー 有ります。

露宿バックナンバーは創刊号から（2号、4号、18号は売切です）在庫があります。お求めはろじゅく編集室まで、郵便振替用紙、FAX、TEL、メールなどでご注文下さい。

「ろじゅく」

### 【露宿定期購読の御案内】

毎号確実に読者のお手元に届けるため当方では定期購読を承っております。

定期購読8回分 5000円（郵送費込み）

定期購読4回分 2500円（郵送費込み）

一回ごとの購入でも大歓迎。

一冊は送料込みで660円となります。

### 申し込み方法

郵便振替用紙（00160-6-190947ろじゅく編集室）に定期購読もしくは継続購読とお書きになり、住所、氏名を明記の上送金して下さい（発行ごとに郵送します）。尚、郵便振替の他、切手での受け付けもしております。FAX、メールにても注文承り中。

まとめ買いはお安くなります。

2冊以上は送料無料、5冊2000円、10冊3500円、50冊15000円（いずれも送料込み）となります。

露宿 ROJUKUはココで買えます。

◆模索舎 東京都新宿区2-4-9 TEL/FAX 03-3352-3557 ◆TACO ché 東京都中野区中野5-5-2-15中野ブロードウェイ3階 TEL 03-5343-3010 FAX 03-5343-4010 ◆スペースかほす 東京都新宿区大京町3新大京マンション304号 TEL 03-5367-5666 ◆新宿中央公園ポケットパーク（毎日曜午後6時から8時まで）TEL090-3818-3450 ◆石手寺 愛媛県松山市石手2-9-21 TEL 089-977-0870 ◆ぐりん・びいす 宮城県仙台市青葉区立町18-12-104 TEL/FAX 022-213-6739

路上文芸総合雑誌「露宿 (ROJUKU)」第23号 2003年3月1日発行（隔月刊）

主宰・笠井和明 編集/発行・ろじゅく編集室 〒170-0014 東京都豊島区池袋1-14-5-13

TEL/FAX 03-3981-6746/090-3818-3450（笠井）

Eメール・rojuku@d9.dion.ne.jp URL・<http://www.d9.dion.ne.jp/~rojuku/>

郵便振替口座 00160-6-190947 加入者名「ろじゅく編集室」

販売協力・新宿連絡会、露宿ペン俱楽部 印刷・株式会社ラジオグラフィー